

14.21

898

14. 21-898



1200501163926

(滿洲國)産業部資料第一〇  
 産業部大臣官房資料科編  
 南滿地方(主要都市)に於ける肉用家畜の  
 需給事情(附獸骨)に関する調査報告書



# 始



1424  
898

HP

資料

(10)

肉畜需給に関する調査報告書

産業部大臣官房資料科



南滿地方(主要都市)に於ける肉用家畜の  
需給事情(附獸骨)に關する調査報告書

臨時産業調査局第二科第二班

調査員 一ノ宮 詣喜



同科寄贈本

本調査は康徳二年自三月九日至四月二十二日、四十五日間消費地市場たる新京、奉天、大連等南滿洲鐵道沿線主要都市に於ける肉用家畜需給狀況(附、獸骨)並に同年自十一月二十日至十二月二十六日、三十七日間肉畜出廻期に於て龍江省、興安南省錦州省等の生産地市場に於ける肉畜集散事情に關し調査せる結果を取纏めたるものなり。

本邦に於ける肉用家畜は豊富なる資源を有し民國九年(大正九年)滿蒙肉の日本輸出をも開始せられ爾來其の輸出數量は漸次増加し來れる状態にありしも滿洲事變前後に於ける匪賊の掠奪甚しかりしと、建國以來國內人口の増加及住民經濟力の充實に伴ふ食肉需要の増大は漸次資源の衰枯を告げ近時國內に於ける需給關係に於ても難關に到達し日本輸出等不可能ならんとするの秋に當り是が適確なる集散頭數及取引の狀況並に肥育事情等を調査し肉畜改良増殖計畫樹立の資たらしめんとせるものなり。

尙北滿及舊東邊道地方、興安西省並熱河省等殘餘の地方に於ける事情を調査し本邦に於ける肉用家畜の需給狀況を詳にせんとす。



11  
228

目次

第一章 肉畜生産地市場.....	一
(一) 洮南.....	一
(二) 遼源.....	七
(三) 通遼.....	六
(四) 錦.....	六
第二章 肉畜消費地市場.....	五
(一) 大連.....	五
(二) 旅順.....	五
(三) 普蘭店.....	六
(四) 營口.....	六
(五) 鞍山.....	七
(六) 遼陽.....	七
(七) 撫順.....	七
(八) 安東.....	九
(九) 本溪湖.....	三

(一〇) 奉天.....六  
 (一一) 鐵嶺.....一五  
 (一二) 四平街.....一九  
 (一三) 新京.....二三  
 第三章 肉牛肥育事情.....一九  
 附、獸骨に關する調査.....三三

# 肉畜需給に關する調査報告書

## 第一章 肉畜生産地市場

### (一) 洮南

洮南は龍江省の南端に位する洮南縣々公署の所在地にして人口五萬六千、平齊線の中央部に位置し家畜及畜産物の集散市場として一大門都たり。

一、縣内家畜飼養、生産、斃死頭數  
 康徳二年九月現在本縣内家畜飼養頭數及康徳元年一ケ年に於ける生産斃死頭數左表の如し。

増同年内斃	區分		現在頭數	種別		總計				
	牛	馬		騾	驢					
減死	八九五	一五五	二七四	八〇八	二一五	一七四	五五、四八	一一、五五	二、六六	二〇、八七
同年内斃	四六七	六四四	一〇元	一、八五	一、四七	三三	六九	二〇九	四、八六	六、八三
増	四〇八	九二	三三	七九	九	五	三九	一六九	二〇、八七	二〇、八七

### 二、肉用家畜の出廻及需要

洮南に於ける康徳元年中、家畜の月別出廻頭數を表示せば左の如し。

種類	月別												
	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	計
牛	1108	99	1116	1176	83	23	118	1101	1199	1211	1266	1288	1286
馬	3	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
騾	3	8	7	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1
驢	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
綿	810	73	22	14	15	15	7	27	25	61	38	20	593
山	7	7	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
羊	97	71	38	26	21	21	17	17	15	12	12	12	12
豚	27	21	28	26	21	21	17	17	15	12	12	12	12

蒙古牛の原産地方より各市場に出廻る時期は普通陰曆七月十五日以降翌年一、二月頃迄にして八、九、十の三ヶ月を其の出廻最盛期とす。斯の如く蒙古牛の原産地より市場出廻の秋冬の期を主とする所以は市場に於ける牛肉需要時期の關係と原産地に於ける供給上の便宜によるものにして滿洲に於ける牛肉の需要は一般に初秋の頃より翌初春の頃迄に多く夏期は其の需要甚だ少し。又一方原産地に於ける牛の飼育状況を見るに四季殆んど放牧によるものにして青草繁茂する夏秋は牛體よく肥滿するも冬は野草枯死し飼料不足を告げ瘠瘦甚だしく老衰幼弱なるもの、寒氣と饑餓の爲斃死するもの續出するを以て飼育者は冬に先ち牛の最もよく肥滿せる秋に賣却し越冬日用品に代ゆるを例となせり。

綿、山羊は是に反し七、八月盛夏の候肉味淡泊なるを以て滿洲人間に夏季食糧として賞美せらるゝ關係上、其の出廻最も多し。

馬、騾、驢、豚の出廻は四季を通じ大差なし。既往に於ける出廻頭數は次表の如し。

年次	種類						計
	牛	馬	騾	驢	綿山羊	豚	
民國二十年	546	36	6	6	550	576	1775
大同元年	1521	58	11	11	1501	1601	3183
同二年	890	49	10	5	605	512	2161
康德元年	238	18	2	3	59	94	314

當地は古くより家畜及畜産物の集散市場として開拓せられたるものにして十數年前即ち民國七、八年より同十二、三年に至る頃露西亞人及漢民族牛、馬商の此地に移住するもの多く一ヶ年の取扱頭數一二、三萬頭に達し盛況を呈せりと謂れしも爾來匪賊の横行甚しく生畜の之に奪掠さるゝもの多く漸次衰微を來せり。

滿洲事變を契機として國內主要市場に於ける人口の激増による需要の増加は原産地に於ける資源薄を來し加ゆるに消費地市場北滿哈爾濱及新京に對しては海拉爾、齊々哈爾、王爺廟、南滿大連、奉天其他滿鐵沿線主要市場に對しては開魯、綏東、朝陽、赤峰が主要集散市場となれる現在に於ては地場消費の増加はあるも移出數の増加は望み難く從て肉畜の出廻頭數の將來を觀察するに現状保持の域を脱せざるものと思考す。

次に當地に於ける地場消費としての屠殺頭數を見るに左表の如し。

康德元年中、月別屠殺頭數

種別	月別												
	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	計
牛	九六六	九〇一	一三〇	一三三	一三七	一七	一三	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	九〇六
馬	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
騾	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
綿、山羊	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
豚	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	九六六	九〇一	一三〇	一三三	一三七	一七	一三	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	九〇六

既往に於ける畜種別屠殺頭數

年次	種類										
	牛	馬	騾	驢	綿、山羊	豚	計				
民國十八年	二七六				九四六	八五元	二〇六六				
同十九年	一七九				七六一	七六三	一〇〇〇				
同二十年	一七九				五〇三	五七六	一〇八〇				
大同元年	二二二				二九四	六八三	一八八一				
同二年	三三三				五〇〇	五二〇	一八六〇				
康德元年	一〇六				二二	九四四	一五二二				

市場への牽付

肉畜の原産地方より市場への牽付は主に市場生畜商人の買出によるもの及市場附近生産者の糧穀、畜産物等と共に

市場に搬出賣却するものなるも原産地蒙古人生畜商人の手により市場に牽付らるもの少數あり、尙出撥子(行商隊)の手により市場に出廻るものも相當多數に達す。

出撥子は普通數人乃至十數人一隊をなし各地方市場より綿布類、小麦粉、酒、煙草、砂糖、燐寸、茶其他各種の蒙古向日用品を満載し蒙古内地に至り數ヶ月間各地方を巡回行商し其代價は貨幣を受取る場合あるも主として家畜及畜産物にして是等の家畜及畜産物は歸途其根據地若くは他の蒙古貿易市場に搬出賣却せらる。

内蒙に於ける出撥子の根據地は洮南、通遼、開魯、綏東、錦、義、赤峰、烏丹城、林西、經棚、多倫等にして呼倫貝爾に於ては海拉爾滿洲里等なり、是等の市場より蒙古内地に入込む出撥子の數は甚だ多く従つて蒙古畜産物の市場に搬出されるものは是等の手によるもの最も多し。

前述の如く當地に出廻りたる肉畜は市場肉商により屠殺消費さる、外南滿各主要消費地市場に向け汽車輸送若くは趕送により移出せらる。

康徳元年中當市場に於ける地場消費及移出頭數を見るに左表の如し。

區分	種類										
	牛	馬	騾	驢	綿、山羊	豚	計				
地場消費(屠殺)	九〇六	一八	一	一	二二七	九三四	一五二二				
移出	九二六	一五九	一	一	二四九	一	一五二二				
輪送	九〇	一四〇	一	一	一〇〇	一	一〇〇〇				
趕送	九七五	一五八	一	一	二八五	一	一五二二				
合計	一三八六	一五六	二	二	五二二	九三四	三二、五八				



滿洲事變前匪賊の横行少かりし時代（調査牛商人の言によれば滿洲事變前は農村各戸に銃、其他の武器を有し整備上好都合なりしも事變當時に於ける張學良系の匪化により事變後匪賊数は増加せりと）奉天、新京、吉林、哈爾濱、黑河方面に牛、馬、羊を趕送するもの多く當時高率なりし汽車輸送を行ふものなかりしも事變後前述匪賊の危険多きと輸送費の低下により現在に於ては趕送をなすもの稀なり。

輸送、肉畜の汽車輸送には普通三〇噸貨車を使用し、一車の積込頭數<sup>カネエツ</sup>喂牛（肥育牛）二五頭、草牛<sup>ソウニウ</sup>（肥育）ヲナサザル牛）四〇頭、馬、騾四〇頭、驢五〇頭乃至六〇頭、綿、山羊一二〇頭乃至一五〇頭にして南滿各市場に輸送するに積込より到着迄輸送家畜に對し給飼することなし。押運人（輸送人夫）は一車一名にして國線に於ては乗車券を要せざるも滿鐵線（自四平街至南滿各驛）は三等乗車券を要す。輸送地に到着せし場合押運人は直に受領生畜商人に通報し率付をなす。

洮南より南滿主要市場に至る輸送貨車賃左の如し。

自洮南至四平街（一車）	九六・一〇
同 鐵嶺	一三八・二〇
同 奉天	一六三・九〇
同 遼陽	一八三・九〇
同 大連	二八七・九〇
同 新京	一三六・三〇

趕送、趕送は牛、馬五―六頭より多きは二〇〇―三〇〇頭綿、山羊にありては四〇〇―五〇〇頭を一時に趕送する場合あるも普通二〇―三〇頭乃至七〇―八〇頭の一群趕送をなす場合最も多し。

趕蹠<sup>カシタシマ</sup>子的（趕送人夫）二名にて冬期牛、馬三〇―四〇頭、綿、山羊七〇―八〇頭を趕送し得るも夏期に於ては趕送中農作物を荒す慮れあるを以て三名乃至四名の趕蹠子的を要す。斯の如く夏期の趕送は困難なるのみならず匪賊の危険もあり一般に趕送は冬期に行はるを普通とし従つて趕蹠子的は夏期は主業の農業に服し冬期副業的に之に従事するもの多し。

洮南より新京迄牛三〇頭を趕送する場合其經費左の如し（趕蹠子的二名、所要日數二二日）

趕蹠子的往復手當 一名二〇・〇〇二名分	四〇・〇〇
宿泊料、趕蹠子的一名一夜・五〇、一夜五・五〇二名分	一一・〇〇
飼料費 一日・三〇、一日三・三〇、三〇頭分	九九・〇〇
計	一五〇・〇〇

是を汽車輸送と比較するに

自洮南至新京（一車三〇頭積）	一三六・三〇
押運人汽車賃（自 <sup>四</sup> 平街 <sup>至</sup> 新京一・八〇）	一〇・〇五
計	一四六・三五

即ち汽車輸送による場合三・六五の經費安となるのみならず輸送日數短く前述せし如く匪賊等の危険なきを以て現在趕送を行ふもの殆んどなし。

### 三、肉畜の取引機關

當地には近く縣營家畜交易市場を設置すべく目下諸種の準備を了し家畜交易市場法の發布を待ち居る状態なり、是

が實現を見れば從來放任せられたる家畜衛生並に防疫施設を適切ならしめ賣買、交換手数料を統一し既往に於ける賣買主の過重なりし負擔を軽減し加之常に家畜の生産並に利用等に關係ある地方及機關との連繫を保有し是が狀況を明になし得るを以て畜産業の開發に資すところ大なるべし。

當地に於ける家畜の賣買は主として牛馬店時に糧棧に於て行はる即ち市場生畜商の販子(買出人)の原産地方より買出したるもの、原産地方蒙古生畜商人及附近農民の糧穀、畜産物等と共に市場に牽付たるものは夫々牛、馬店若しくは糧棧に繋留せられ牛、馬店或は經紀(賣買仲介人)の斡旋により南滿市場よりの老客(消費地市場より集散地市場に至る買出人)若しくは當市場に於ける肉商との間に賣買成立し老客により買付られたるものは貨車積に都合よき頭數(一車牛にありては二〇―四〇頭、二車四〇―八〇頭なるが如し)に達する迄牛馬店に繋留の上南滿各市場に向け輸送せられ肉商に買入れしものは屠宰場に於て地場消費肉として屠殺さるを普通とす。

豚の取引は附近農民の程出せるを經紀の手を經ず肉商直接購入若しくは肉商の附近農村より買出によるものなり。此の如く牛、馬店は原産地方より市場牽付家畜の繋留、賣買の斡旋及保證、老客買付後輸送迄の繋留をなす外賣費を以て販子、老客を宿泊せしめ繋留家畜飼養管理の依頼にも應ずる家畜代理店にして賣買周旋保證の手数料として賣買價格の百分の四(牛一頭五〇・〇〇圓とせば二・〇〇圓)を賣主買主各方より折半徴收す。

尙牛、馬店には糧棧を兼營し家畜及糧穀、畜産物の取引を行ふものあり。經紀の賣買手数料も牛馬店に略同じく賣買價格の百分の四を普通とす。

馬の取引は當地稅捐局前廣場を馬市場となしあるも現在に於ては牛、馬店、糧棧に於て取引さるもの多く馬市場を利用するもの少し。

牛、馬店に於て取引さるゝ家畜は牛、馬、騾、驢、綿、山羊なるも回教徒の經營せるものは牛、羊のみの取引を行ふ。

出廻家畜の牛は總て蒙古牛、馬、騾、驢、綿、山羊は何れも滿蒙在來種にして豚は在來種の中、小型に屬す。原産地は何れも内蒙察哈爾省東、西烏珠穆沁、興安南省科爾沁右翼前、中、後旗各地及近方突泉、瞻榆、開通、安廣各縣産のものなり。

前記烏珠穆沁及科爾沁各旗産の肉畜は素倫、突泉、圖什業圖高力板を經て當市場に牽付らるゝもの多し、是が出廻經路を圖示せば別紙の如し。

牛、馬店の組織は個人經營を主とし數名合資のもの少し十年前好況時に於ては資本五萬乃至一〇萬を投じたる大牛、馬店ありたるも現在に於ては何れも資金三〇〇・〇〇乃至五〇〇・〇〇程度にて營業なし居れり、従業員は二名乃至一〇名にして普通五―六名のもの多し。

當地に於ける肉畜取引の方法は何れも滿洲國流の立相場にして生體により肉量を目算推測し一斤(普通二五〇匁)の建値に肉量を乗じたるものを以て取引價格となす。

取引相場	牛、	目算肉量一斤に付國幣	●一五―一七
	馬、騾、驢、同		●一〇―一二
	綿、山羊	同	●一七―二〇
	豚	同	●一八―二二

用役畜としての取引價格

馬 驃 驢

五〇〇〇乃至一二〇〇〇  
五〇〇〇乃至一〇〇〇〇  
七〇〇乃至 二五〇〇

一〇

右の如く當地出廻家畜の頭平均肉量牛にありては三〇〇斤なるを以て其評價格四五圓乃至五一圓となり、馬、驃の肉用として屠殺さるゝものは老廢、不具のものにして肉量二〇〇斤内外なるを以て二〇圓乃至二四圓、綿、山羊肉量二五斤價格四・二五圓乃至五圓、豚一頭肉量一〇〇斤程度のもを普通とし一八圓乃至二二圓の取引價格となる。當地牛、馬店には肉畜(特に牛)の肥育を兼るものなきも自家院内を提供し南滿主要市場老客に肥育の便を圖り飼養管理の斡旋をなすものあり。

新京、鐵嶺、奉天等の市場牛商人は牛の出廻最盛期に於て多數買付を行ひ牛肉需給の關係、飼料買入、肥育場等の便宜上買付頭數の一部を當地牛馬店院内に於て或期間肥育を行ひたる上輸送なすもの年一〇〇頭を降らず。本年も牛、馬店德盛祥院内に於て鐵嶺牛商人五〇頭、裕昇恒院内に於て奉天、新京牛商人六〇頭の肥育をなし居れり。當地に於ける牛馬店左の如し。

住 所	商 號	氏 名
洮南官署街	天 增 久	高 錫 侯
同 天和街	德 盛 祥	馮 德 仁
同	成 記 牛 店	楊 子 珍
洮南富文街	裕 昇 恒	安 希 賢

洮南富文街	福 升 合	王 廣 璞
同	聚 生 長	錢 耀 宗
同 玉成街	公 記 棧	王 國 安

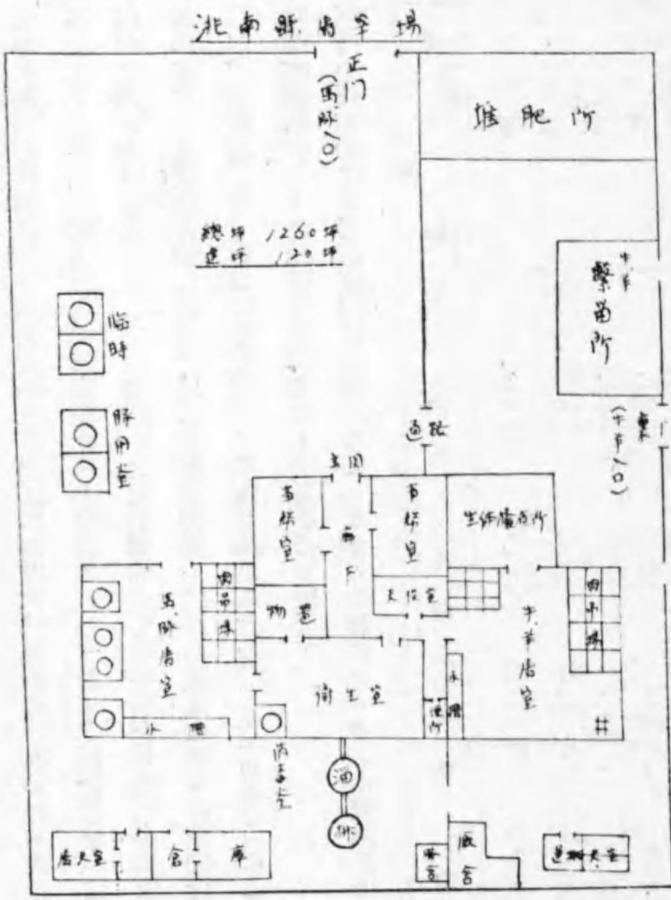
四、屠 宰 場

當地に於ける屠宰場は民國八年縣公署、市政公所により豚屠場を、回教徒により清真寺所有地内に牛、羊屠場を設立せられたるに始り設備全く不完全にして専ら税金徴收の機關たるに過ぎりしも大同二年末仁義街に敷地一、二六〇坪、建物總坪一二〇坪資本額國幣一四、〇〇〇・〇〇圓を以て機構一新せる現縣營洮南屠宰場の設置を見康徳元年一月より屠殺作業を開始せり。

洮南縣營屠宰場従事員左の如し。

主 任	月 額
主 任 一 名	四四・〇〇
獸 醫 一 名	一一〇・〇〇(日人)
事 務 員 二 名	一名三〇圓、一名二〇圓
夫 役 三 名	各 一五・〇〇
屠 夫 三 名	牛屠夫一名三〇圓、豚屠夫二名各一五圓
屠肉運搬夫 三 名	各 一五・〇〇
計 一 三 名	

康徳元年中に於ける屠宰場收支左の如し。



屠宰場設備其他は略圖の如し。

牛 一三〇頭  
 驢 二七〇頭  
 豚 一〇〇頭

馬、驢  
 綿、山羊

二五〇頭  
 一五〇頭

五、精肉

肉畜集散市場たる當地に於ては前各項に於て述べたる如く原産地方より牽付られたる肉畜を消費地市場たる南滿各主要都市に向け生畜の儘輸送若くは殺送せらるるものにして當地屠宰場に於て屠殺さるるものは何れも地場消費肉なるを以て肥育牛、豚の屠殺さるるものなく従つて精肉として其品質良好ならず又屠肉歩止も牛四五―四七%馬、驢三〇%以下、綿、山羊三三―三五%、豚四七―五〇%程度なり。

本屠宰場に於ける畜種別屠殺能力次の如し。

種類	屠宰捐	使用料	検査料	清眞校費	屠肉運搬費	合計
綿、馬、牛	〇	〇	〇	〇	〇	〇
豚、山驢	〇	〇	〇	〇	〇	〇
羊、騾	〇	〇	〇	〇	〇	〇
合計	〇	〇	〇	〇	〇	〇

屠宰税種、捐目、手数料及金額

収入	支出
屠宰捐	俸給
使用料	薪金
検査料	辦公費
屠肉運搬費	
毛、血賣上	
合計	差引收益
一九、四六〇・〇一	五、五五九・四五
	一三、九〇〇・五六





大同元年以降の出廻頭数は何等資料なく明瞭ならざるも今回の調査により家畜集散市場として古の隆盛の面影全くなく地場消費肉畜の出廻に過ぎざる状態より推して恐らく漸減の道を通りたるものと思考せらる。

康徳元年四、五月の頃より當地に出廻る肉畜は激減し營業不振に陥りたる當時營業中の牛、馬店三軒（泉盛和、富源長、三成永）は同年末迄營業を繼續し蒙古牛出廻最盛期たる陰曆八、九、十月を期待せるも從來當地に出廻りたる肉畜も原産地方生畜商人の牽付に便利なる奥地市場（洮南、通遼、開魯）に向ひ新京、奉天其他南滿市場よりの老客も目然出廻頭數多く從て取引相場安き前記三市場より買出すの状態にして依然當地に出廻るものなく不得已二軒は轉業、一軒は開魯に轉住牛、馬店を營業し現在當地に於て營業中のもの一軒もなき有様なり。

最近に於ける肉畜の出廻は洮南の項に於て述べたる如く開魯、綏東、赤峰等主要集散地となり原産地資源薄及鐵道開通等により奥地市場に於て取引せらるゝもの多きを以て肉畜集散市場としての當地は將來全く其價値なきものと思惟す。

當地に於ける屠殺頭數左の如し（屠場に就ては後述すべきも遼源には縣營及日本領事館警察署の許可になる日人經營の二場あり）

康徳元年中、月別屠殺頭數

種類	場別		月別												
	個	縣	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	計
牛	個	縣	九	八	五	二	一	二	一	一	一	一	三	一	三
	營	營	一	九	八	二	一	二	一	一	一	一	三	一	三
猪	個	縣	一	九	一〇	九	一〇	六	三	一	一	一	五	三	七
	營	營	一	九	一〇	九	一〇	六	三	一	一	一	五	三	七

種類	場別		計	
	個	縣	個	縣
綿、山羊	個	縣	二七	二五
	營	營	二七	二五
豚	個	縣	一〇	七
	營	營	一〇	七
計	個	縣	三七	三二
	營	營	三七	三二

既往に於ける畜種別屠殺頭數

年次	場別	種類	牛		綿、山羊		豚		計	
			個	縣	個	縣	個	縣	個	縣
民國十九年（縣營）	縣	營	1186	1170	5110	5400	2911	2100	10460	10460
			營	營	營	營	營	營	營	營
大同元年（縣營）	縣	營	1590	1590	2782	2782	4265	4265	8201	8201
			營	營	營	營	營	營	營	營
大同二年（縣營）	縣	營	1381	1381	1932	1932	6490	6490	9793	9793
			營	營	營	營	營	營	營	營
康徳元年（縣營）	縣	營	133	133	1556	1556	6468	6468	9257	9257
			營	營	營	營	營	營	營	營

右の如く出廻肉畜は主として地場消費のものに止るも當地振興街益源湧燒鍋に於て自家生産の酒糟を以て毎年、牛の肥育を行ひ南滿市場に移出し康徳元年には五〇頭を新京公主嶺に輸送せり。

三、肉畜の取引機關

前項に述べたる如く當地には現在營業をなせる牛、馬店なく家畜の取引は總て糧棧に於て行はる即ち附近農民（主に蒙古人）の趕出し來り糧棧に宿泊し居るものを経紀の斡旋により當地肉商人購入し屠殺をなし居れり。經紀の手續料は賣主、買主各方より折半支出とし牛、馬、騾、驢四〇錢乃至五〇錢、綿、山羊二〇錢乃至三〇錢なり。

出廻家畜の種類は洮南に同じく原産地は何れも附近農村の生産に限られたり。

取引方法は洮南に同じ、各肉畜の取引相場左の如し。

牛	目算肉量一斤に付	國幣	草牛	・一八、喂牛	・二四
綿、山羊	同			・二〇一・二二	
豚	同			・一八一・二〇	

右の如く當地出廻家畜の一头平均肉量草牛三〇〇斤價格五四圓、喂牛四〇〇斤價格九六圓となり、綿、山羊肉量二五斤價格五圓乃至五圓五〇錢、豚一头肉量一〇〇斤程度なるを以て一八圓乃至二〇圓の取引價格となる。

四、屠宰場

當地には遼源縣營屠宰場及在鄭家屯日本領事館警察署の許可になる經營主添田晴正、管理人岩崎鐵平の鄭家屯屠宰場の二場あり。

1. 縣營屠宰場

民國十年前後當時の縣公署により設置せられたるも屠畜検査員なく收捐檢印を行ふに止りたるも大同元年十月一日資本金大洋七六八圓四七錢を以て遼源關帝廟街東現縣營屠宰場を開設せり。

屠宰場従事員

收捐員	一名	月額	二〇・〇〇
巡查	一名		一七・〇〇
屠夫	一名	月額	一四・〇〇
夫役	一名		九・〇〇
計	四名		

一、検査員は當地滿鐵事務所勤務獸醫を縣公署より委嘱す。

一、肉商雇用屠夫（牛屠夫回教、漢教各一名、豚屠夫各隊肉商雇用）

康徳元年屠宰場收支

收 入		支 出	
屠宰捐	五、四九八・四〇	俸給	七六〇・〇〇
肉捐	三、三七五・七〇	薪金	六八九・〇〇
檢驗費	二、九七九・一〇	賞與	六四・八〇
合 計	一一、八五三・二〇	辦公費	一、一〇五・八一
		差引、收益	二、六一九・六一
			九、二三三・五九

屠宰稅種、捐目、手数料及金額



種類	税種別	屠宰	捐肉	捐檢	驗	費合	計
綿、 山牛 豚 羊			二・五〇 三・〇〇	一・〇〇 二・〇〇	五〇 二〇	五〇 二〇	四・〇〇 七・〇〇
							一・四〇

備考

一、康德二年十月より屠畜保險費牛、羊、豚各一頭に付一〇錢を徴收し屠畜検査の結果廢棄處分に對する損害保險をなし居れり。

畜種別屠殺能力

牛 五〇頭  
豚 一五〇頭  
綿、山羊 三〇〇頭

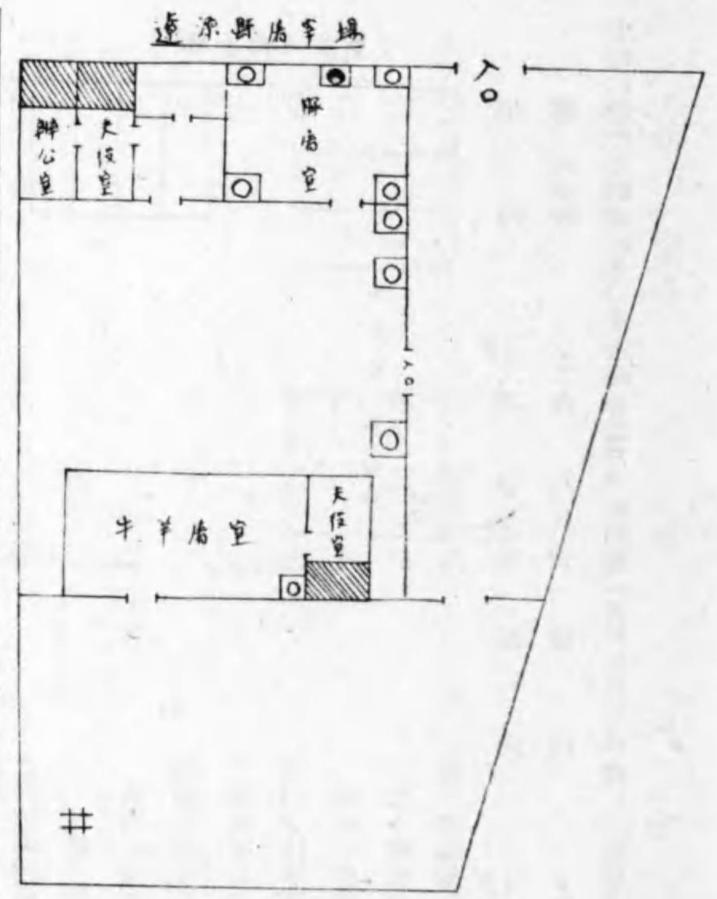
屠宰場設備其他は別紙略圖の如し。

2. 鄭家屯屠畜場

昭和七年當地馬路頭に資本金二二、〇〇〇圓を以て經營主驛前居住添田晴正、管理者新市街居住岩崎鐵平設置し翌八年(大同二年)一月九日附在鄭家屯日本領事館警察署の許可を得たるものなり。

屠畜場従事員

屠夫(牛屠夫) 二名 月額 一名 二五・〇〇  
一名 七・〇〇



一、検査員は當地滿鐵事務所獸醫を領事館警察署より委嘱す。  
一、馬、豚屠夫は營業者自用とす。

屠畜場收支

從來本屠畜場に於て屠殺せるは屠場管理人たる肉商岩崎鐵平一名なりしも本年に至り新に營業を許可せられたる肉商三軒計四軒にて使用せり従て康德元年度に於ける屠畜場收支は管理人岩崎肉商の收支にして屠畜場としての收支明かならず。  
屠畜税種手数料及金額

税種別	種類	牛	馬	騾	驢	豚	備考
屠殺		三〇〇圓	一〇〇圓	二〇〇圓	一〇〇圓	一〇〇圓	本年七月より縣公署の達しにより寄附
公置		一〇〇圓	一〇〇圓	一〇〇圓	一〇〇圓	一〇〇圓	
合計		四〇〇圓	二〇〇圓	三〇〇圓	二〇〇圓	二〇〇圓	





より魯北、林東に牽付られ開魯、綏東を経て奉天、或は林西、大板上、經棚、烏丹城、多倫に牽付られたるものは赤峰を経て奉天其他南滿各市場の出廻経路をとり當地の出廻頭数は著しく減少したるものにして消費地市場買出人(老客)は益々奥地市場を買出地となす現在當地に於ける肉畜出廻の將來は減少の一途を辿るものと思考せらる。

康徳元年中月別屠殺頭數

種類	月別												
	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	計
牛	55	58	100	115	77	29	22	27	166	226	226	226	2101
綿、山	28	28	22	10	5	29	25	46	25	22	27	27	2101
羊	22	22	27	26	45	46	25	42	55	22	27	27	2101
豚	22	22	27	26	45	46	25	42	55	22	27	27	2101
計	107	116	159	156	172	101	74	115	269	275	280	280	2101

既往に於ける畜種別屠殺頭數

年次	種別	牛				綿、山		羊		豚		計
		一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	
大	同	11,214	11,214	11,214	11,214	1,595	1,595	3,332	3,332	7,148	7,148	
大	同	3,883	3,883	3,883	3,883	3,635	3,635	4,184	4,184	11,702	11,702	
康	徳元	2,403	2,403	2,403	2,403	1,841	1,841	4,838	4,838	9,082	9,082	

肉畜の市場への牽付は洮南の項に於て詳述せる如くなるも主として市場生畜商販子の魯北、開魯より買出したるもの及原産地方生畜商の理出によるものにして其他附近農民の牽付、出撥子の搬出等あり、此の如く市場に出廻りたる

肉畜は當地肉商により屠殺消費さるゝ外奉天、遼陽、營口、開原等の南滿消費地市場に向け輸送せらる。

康徳元年中當地に於ける地場消費及移出頭數左表の如し。

區分	種類	種類						計
		牛	馬	騾	驢	綿、山	羊	
地場消費(屠殺)	送	11,214	1	1	1	1,411	1,411	
輸送	送	5,262	953	3	35	1,077	7,690	
合計	計	16,476	954	4	48	2,488	19,366	

滿洲事變前に於ては南滿市場に移出さるゝ肉畜の大部は當時高率なる汽車輸送を行ふものなく殆んど程送せられたるも滿洲建國後輸送費の低下により輸送日數の短縮及匪賊等の危険を顧慮し現在に於ては専ら汽車輸送をなせるも奉天方面に移出さるゝものは地理的關係上彰武迄汽車輸送をなし彰武より奉天へ程送するもの多く従て彰武は開魯、綏東地方より程送、通遼より汽車輸送によるものゝ中繼市場として其の集散頭數甚だ多し。

輸送、輸送方法は洮南の項に於て述べたる如くなるも當地より南滿各主要市場に至る輸送貨車賃左の如し。

自通遼	至奉天 (四平街經由)	一三五・六五
同	鐵嶺 (同)	一一一・四五
同	新京 (同)	一一〇・七五
同	大連 (同)	一二三・五五
同	四平街	六八・三五

自通遼 至營口 (河北站迄)

一一三・三〇

三〇

稈送、大體洮南の項に於て述べたるものに等しく六―七頭より多きは三〇―四〇頭を一群として稈送する場合  
あるも最も普通とされるは三〇―四〇頭より七〇―八〇頭なり。

開魯より當地迄の稈送日程は三日間にして其の経費は趕蹠子の一名二圓半一頭一圓を要するを以て三〇頭の牛を趕送する場合

趕蹠子の二名	一名	二・〇〇	四・〇〇
牛一頭一日分飼料費		・三〇	三〇頭分 九・〇〇
			三日間分 二七・〇〇
	計	三一・〇〇	

奉天への趕送には一日を要し其の経費趕蹠子の一名一泊五〇錢、牛一頭一日三〇錢、即ち三〇頭を趕送する場合の経費左の如し

趕蹠子の二名	宿泊料一名	一〇泊	五・〇〇	二名分	一〇・〇〇
牛一頭一日分飼料費		・三〇	三〇頭分 九・〇〇	一日間分	九九・〇〇
				計	一〇九・〇〇

### 三、肉畜の取引機關

當地に於ける家畜の賣買は牛、馬店及商人個々の間に於て取引行はる、外當地馬市街路上に於て毎日午前九時より十一時迄家畜市開かる。

南滿市場よりの老客は牛、馬店に宿泊し當地及開魯、魯北地方の生畜商販子により買出されたるもの、原産地方生畜商及附近農民の糧穀、畜産物等と共に市場牛、馬店に牽付られたるものを經紀の斡旋により買付け之を汽車輸送若は趕送により夫々南滿市場に回送せられ、市場肉商により買付られたるものは屠宰場に於て屠殺の上地場消費肉とさるものなり。

馬市街路上に開かる、家畜市にかゝるは一日平均牛七―八頭、馬一〇―一五頭、騾四―五頭、驢六―七頭にして全部賣買成立すること稀なり、牛、馬店及家畜市にて賣買斡旋をなす經紀は五〇―六〇名に達す。

牛、馬店の手數料は洮南に於けると略同様にして牛、馬、騾一頭二圓、一圓、綿、山羊二〇錢經紀の手數料は牛七〇錢、馬、騾一圓二〇錢、驢三〇錢、一四〇錢、綿、山羊一〇錢―一五錢にして何れも賣主、買主各方より折半徴收す。

豚の取引は經紀の手を経ることなく市場に趕出せられたるものを肉商直接購入す。

出廻家畜の種類は洮南に同じく牛は蒙古牛、馬、騾、驢、綿、山羊は何れも滿家在來種、豚は在來種の中、小型にして原産地は察哈爾省東西烏珠穆沁、興安西省及省内各旗産のものなり。烏珠穆沁、興安西省及興安南省科爾沁左翼旗産の家畜は開魯、魯北の販子により買出したるもの及原産地方生畜商人の趕送により一旦兩市場に牽付られた上開魯、魯北、通遼の販子により當地に趕送搬出するものなり。

當地に於ける牛、馬店は滿洲事變前迄大、小二十數軒に及び二、三名合資を以て一〇萬圓以上の資本金を有するものあり其取扱頭數も一牛、馬店一ヶ年牛五、〇〇〇頭を降らざりしと云ふも其後出廻家畜數漸減し現在主として個人經營にして資本金は普通五〇〇圓程度なるも康徳元年に於ては何れも相當の損失あり本年に至り轉業するもの多く

目下營業中の牛、馬店八軒の内本年中に經營主の變更せるもの六軒に及びり従て康徳元年の各店別家畜取扱頭數も明ならず。

肉畜取引の方法は洮南遼源に同じ立相場にして生體により肉量を目測し之に一斤の建値を乗じ價格を決定す。

畜種別一斤の建値左の如し

牛	目算肉量一斤に付	國幣	・一五
綿、山羊	同		・一五
豚	同		・二二

右の如く當地に出廻る肉畜の最も普通とされる肉量は牛一頭三〇〇斤にして其評價格四五圓となり。綿、山羊二五斤價格三・七五、豚一頭一〇〇斤程度なるを以て二二圓の取引價格となる。

當地に於ては牛馬店自ら又は南滿市場の老客若は肉商により肥育の行はれ居るものなし。當地に於ける牛、馬店名並所在地左の如し

住	所	商	號
通遼	馬市街	東昇	福
同		魁盛	長
同		吉升	永
同		德順	長
同		積昇	東

通遼	南大街	益合	東
同	中大街	裕昇	永
同	北大街	永盛	源

四、屠宰場

當地には通遼縣營屠宰場及滿洲伊斯蘭協會通遼分會の設立になる回教牛、羊屠宰場の二場あるも何れも縣公署の監督下にあり、縣營屠宰場は北順城街に民國七年五月設置せられたるものにして資本額は設立古く明瞭ならず回教牛、羊屠宰場は民國十四年七月清真寺街に資本額大洋二、五〇〇・〇〇を以て開設せられたるものなり。

屠宰場従事員

場	長	一名	月額	六〇・〇〇
僱	員	一名		二〇・〇〇
檢	査	員	車馬費月額	五〇・〇〇(滿人醫師)
巡	査	二名	各	一五・〇〇
夫	役	二名	各	一〇・〇〇
計		七名		

(屠夫は總て肉商使用人とす)

康徳元年屠宰場收支

收		入		支		出	
屠宰捐	屠宰料	屠宰捐	屠宰料	俸給	薪金	賞與	辦公費
七、六七〇・四〇	四、四二四・三〇	七二〇・〇〇	七二〇・〇〇	二、一三〇・八	五九五・〇八	七八・〇〇	一四、四二六・五六
二〇・六四	四、四二四・三〇	二、一三〇・八	二、一三〇・八	一、一三〇・八	五九五・〇八	七八・〇〇	一四、四二六・五六
一六、五三九・六四	二〇・六四	一、一三〇・八	一、一三〇・八	一、一三〇・八	一、一三〇・八	一、一三〇・八	一、一三〇・八
差引	收益	差引	收益	差引	收益	差引	收益
一六、五三九・六四	二〇・六四	一、一三〇・八	一、一三〇・八	一、一三〇・八	一、一三〇・八	一、一三〇・八	一、一三〇・八

屠宰稅種捐目手數料及金額

稅種別	牛		綿、山羊		豚		備考
	種類	金額	種類	金額	種類	金額	
屠宰捐	二〇〇	二〇〇	三〇	三〇	六〇	六〇	康徳二年十月より實施 毎月賣價の百分の五徴收
屠宰料	一〇〇	一〇〇	二〇	二〇	二〇	二〇	
檢査費	三〇	三〇	二〇	二〇	三〇	三〇	
肉捐	一〇〇	一〇〇	二〇	二〇	二〇	二〇	
小腸捐	四・三〇	四・三〇	八〇	八〇	三・三〇	三・三〇	
合計	四・三〇	四・三〇	八〇	八〇	三・三〇	三・三〇	

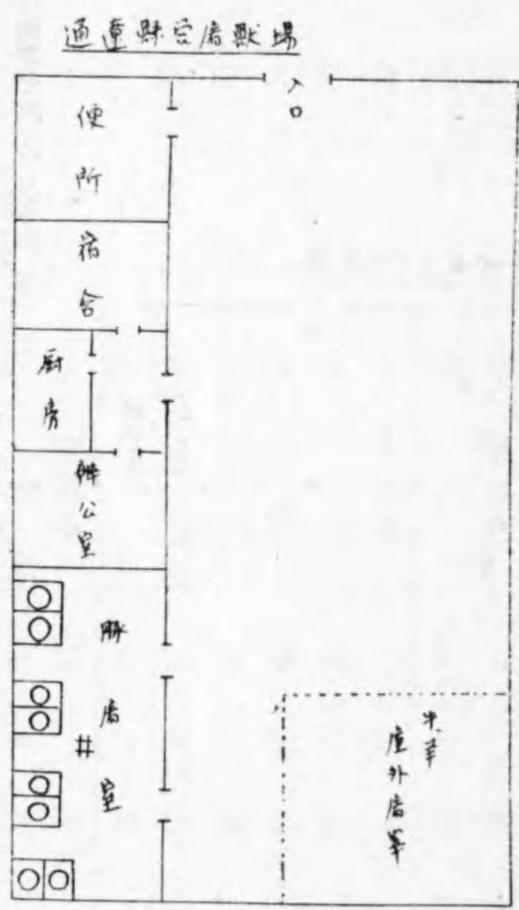
畜種別屠殺能力

牛	一〇〇頭	綿、山羊	一五〇頭
豚	一五〇頭	肉	

五、精肉

當地に於て屠殺消費さるゝ肉畜は特に肥育を行ひたるものなく従て肉質良好ならず、屠肉歩止も略洩南に等しく牛四五%、綿、山羊三一—三三%、豚四五—四八%内外なり。當地回教肉商は何れも店舗を構へることなく市内十字路等に於て跨車を以て販賣するを普通とす

精肉小賣相場は品質により差別することなく季節によりては出廻頭數の増減により仕入相場に變動あり従て精肉小賣値段に多少の高低あるも大體一斤左の如し。



牛	肉	・二〇
綿、山羊	肉	・二〇
豚	肉	・二五

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 豚

(回教牛、羊肉行商者一〇名餘あり)

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 通遼南大街

南市場  
中大街  
馬市街

郝 順 高 玉 張 劉 福 同 萬 祥 双 武 全 春 田 魏  
肉 記 肉 興 肉 記 記 順 盛 記 合 家 發 記 肉 肉  
舖 舖 舖 隆 舖 舖 舖 合 興 舖 福 舖 永 舖 舖 舖

郝 謝 高 譚 張 劉 王 格 屠 王 劉 王 赫 宋 田 魏  
德 金 老 寶 鳳 秀 金 萬 光 福 俊 云 漢

青 榜 六 山 全 閣 峰 銅 年 達 明 春 英 恒 亨 忠

同 同 同 同 牛、羊肉商

同 同 同 同 通遼南大街  
馬市街

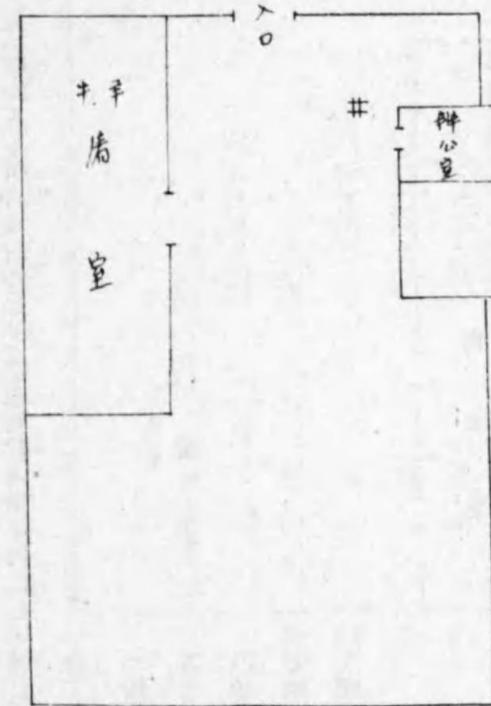
連 陞 祥 武家肉舖

張 蘇 馬 董 王 氏

明 連 俊 福

山 魁 升 才 春 名

通遼回教牛羊屠宰場



行商者を除く左の如し。



(四) 錦

錦は奉天の西南二三五軒、奉山線の主要站にして錦州省公署及錦縣公署の所在地なり、人口八萬五千、察哈爾省、興安西省、熱河省の蒙古物産集散市場として著名なりしも熱河鐵道の開通と共に家畜及畜産物の出廻数は激減するに至れり。

一、錦州省及錦縣家畜飼養頭數

康德元年六月末日現在省内家畜飼養頭數表

種 類	飼 養 頭 數
牛	七九,九一〇
馬	五八,二一九
騾	五九,七二〇
驢	一一〇,五八四
綿、山羊	二七六,二四四
豚	五九,七二六
計	一,一六三,〇九三

康德元年十二月現在錦縣家畜飼養頭數及康德元年一箇年に於ける生産、斃死頭數

區 分	種 類		現 在 頭 數	年 内 生 産	年 内 斃 死	增 減
	牛	馬				
牛	二,三二二	四,九七	二,三二二	六,〇六	一,三三	四,七二九
馬	一,三三	一,七七	一,三三	一,六二	一,六二	三,二八
騾	一,一三〇	一,一三〇	一,一三〇	一,一三〇	一,一三〇	一,一三〇
驢	一〇,三三三	一〇,三三三	一〇,三三三	一〇,三三三	一〇,三三三	一〇,三三三
綿	七,八八	七,八八	七,八八	七,八八	七,八八	七,八八
山羊	一〇,七	一〇,七	一〇,七	一〇,七	一〇,七	一〇,七
羊	二,七九	二,七九	二,七九	二,七九	二,七九	二,七九
豚	五,一八五	五,一八五	五,一八五	五,一八五	五,一八五	五,一八五
計	八八,一四七	八八,一四七	八八,一四七	八八,一四七	八八,一四七	八八,一四七

二、肉用家畜の出廻及需要

康德元年中肉畜の月別出廻頭數を表示せば左の如し。

種 類	月 別												
	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一	一	計
牛	四九	四九	四八	一一九	一一〇	一一〇	六	二六	五三	五四	五四	五四	四四七
馬	五〇	一	三三	一	一	一	一	一	二	二	二	二	一四
騾	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
驢	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
綿、山羊	一四	九	三	五	一	二	一〇	一〇	一三	五	三	三	一〇六
豚	一三八	一三七	二〇一	一〇〇	一七三	一七三	一七三	一七三	一七三	一七三	一七三	一七三	一七三

當地は古くより蒙古貿易市場として察哈爾省、興安西省、熱河省より蒙古物産特に家畜及畜産物の出廻多く奉天其他南滿市場に對する中繼市場たりしも康德元年十二月一日熱河鐵道錦承線金嶺寺—凌源間康德二年十月一日凌源—平泉間の開通及康德二年十一月一日葉峰線(葉柏壽—赤峰間)の假營業開始により察哈爾省多倫、興安西省林西、大板上經棚、熱河省烏丹城其他各市場に出廻りたる家畜は赤峰、葉柏壽、朝陽の各站より奉天其他南滿各市場へ汽車輸送さるゝもの多く從て當地の出廻頭數激減し康德元年九月以降當地より輸送せられたる家畜は豚一六頭に於て現在に於ける當地の出廻は僅に朝陽地方より程送せらるゝもの及附近農村産の地場消費頭數に止るに至れり。

康德元年中月別屠殺頭數

種類	月別												
	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	計
牛	27	33	110	110	3	5	6	13	5	5	7	7	377
馬	1	1	4	3	1	1	1	1	2	1	1	1	17
騾	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
驢	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
綿、山、羊	13	9	3	5	2	9	10	13	5	3	3	3	86
豚	13	17	101	93	13	15	10	14	9	10	11	11	488
計	77	68	239	237	33	45	46	53	32	37	37	37	1,117

既往に於ける畜種別屠殺頭數

年次	種類											
	牛	馬	騾	驢	綿、山、羊	豚	計					
民國十九年	506	1	1	1	527	1,088	2,123					
民國二十年	531	1	1	1	270	824	1,608					
大同二年	383	5	2	1	349	812	1,552					
大同元年	121	7	2	1	34	335	1,072					
康德元年	376	3	5	1	289	489	1,193					

肉畜の出廻は省内朝陽、義、錦西、熱河省凌源、凌南地方の生畜商及農民の趕送によるものなるも亦市場生畜商販子の前記各縣に買出に至るものあり市場出廻家畜の大部は地場消費として屠殺さるゝも一部は奉天、營口等に輸送せ

らる康徳元年中當市場屠殺及移出頭數左の如し。

區分	種類							計
	牛	馬	騾	驢	綿、山、羊	豚	計	
地場消費(屠殺)	347	3	5	3	289	489	1,151	
輸送	60	12	1	1	50	315	1,108	
合計	407	15	6	4	339	804	2,259	

錦より奉天、營口に移出さるゝものは何れも汽車輸送によりしものなるも前述せし如く熱河鐵道の開通により當站より肉畜の輸送さるゝものは興城、連山、義の各地に少數の豚を移出するのみとなれり。(本表による輸送數は鐵道開通以前を多く含むもの)。

三、肉畜の取引機關

錦に於ける家畜賣買は牛、馬、猪店、家畜市場及商人個々の間に於て行はる。  
 出廻肉畜の大部分は原産地方生畜商販子及附近農民の趕送により牛、馬、猪店に牽付け市内肉商との間に賣買成立す牛店には特に經紀を雇備せるものあるも牛、馬、猪店員も亦經紀同様賣買の斡旋をなす。  
 當地北關に日人、滿人合資の錦縣牛、羊販賣組合店なるものあり康徳二年七月一日當地居住の日人古賀一三、滿人巴東孚の二名にて各國幣三〇〇圓即ち六〇〇圓を以て開業せしも牛、羊取引の利用者なく營業不振にして更に九月一日各四〇〇圓を増資し營業中なり、本組合店には經紀一名を常備し賣買其他の斡旋に當らしめ月二五圓を支給なし居れり。

尙當地には馬、騾、驢のみの賣買周旋、販子、老客及趕蹕子的の宿泊の便を圖る公興合馬店あり。  
 猪店は豚の賣買代理店にして錦西、朝陽、義の各縣より汽車輸送若は趕送により出廻りたる豚を猪店に繋留せしめ市場豚肉商との間に於ける賣買の斡旋をなす。  
 猪店に於ける豚販子の宿泊料は給食にて一人一泊五〇錢豚は繋留料不要、飼料は夫々猪店其他より販子の買入によるものにして豚一〇頭に對する一日飼料左の如し。

高粱一斗(價格一圓四〇錢)高粱糟二斗(一斗四〇錢計八〇錢)  
 豆腐糟五〇斤(一〇斤六錢計三〇錢)  
 合 計 二圓五〇錢 一頭一日分 二五錢

家畜市場は北關馬市街路上及路傍廣場に於て毎日午前六時より八時頃迄の間に開催せられ徵稅所の小屋を有するのみにて何等の設備なし家畜の入場料を要せざるも賣買成立時徵稅所に於て牲畜稅(國稅即牛、馬、騾值百抽六、驢、羊豚值百抽三)を納付するものとす。康徳元年に於ける出場中賣買成立したるものは牛三、二七四頭、馬一六一頭、騾一六一頭、驢二八八頭、綿、山羊五、四七八頭、豚一〇、八九八頭なりしも康徳二年に至り錦縣牛、羊販賣組合店外二、三牛、猪店の開業を見家畜市場の利用頭數減少せり。

市場に於て賣買の斡旋をなす經紀は十餘名にして專業者あるも普通何等かの副業を有するもの多し。  
 牛、馬店に於ける手数料は牛、馬、騾二圓驢一圓綿、山羊二〇錢にして賣買主各方より折半徵收し猪店の手數料は一頭に付三〇錢を賣主より、家畜市場に於ける經紀の斡旋手数料は牛、馬、騾一圓驢八〇錢綿、山羊、豚二〇錢を賣買主各方より折半徵收す。

出廻家畜の種類は蒙古牛及當地に於ては在來種の牛を浮地牛フクヂウと呼び所謂錦州牛にして本種も蒙古系と看做すを穩當とするも遠き祖先に於て朝鮮牛の血液を混じ次第に蒙古牛との分野を明にしたるものに非ずやと稱せられ蒙古牛に比し體格概して小平均體高三尺六、七寸體重七、八十貫前後とし角は直上せずして幅廣く不規則に延び角の付根及鼻梁廣く尻(腸骨)の傾斜著しからず、毛色は黃褐色及黒色なるもの多し。

馬、騾、驢、綿、山羊は蒙古在來種にして豚は在來種の小型を主とす。  
 原産地は熱河鐵道開通以前は察哈爾省、興安西省各地産のもの多かりしも鐵道開通後は夫々原産地市場より奉天其他へ直接輸送せられ當地出廻肉畜の大部分は地場消費として屠殺され居る現在に於ては察哈爾省、興安西省地方より出廻なく何れも熱河省凌源、凌南、省内朝陽、義、錦西の附近各縣産のもの多く、牛、羊は朝陽、凌源、凌南、豚は朝陽、義、錦西の各地産のもの多し。  
 察哈爾省、興安西省及朝陽、凌源、凌南各縣産の肉畜は熱河鐵道開通以前は何れも各地方より當地迄趕送し錦站より奉天方面へは輸送せられ居るも鐵道開通後は地場消費頭數のみは朝陽地方より尙趕送せられ居るも其他は各市場より直接汽車輸送すること、なれり。  
 朝陽地方より當地に肉畜を趕送するは主として朝陽方面の販子により行はれ當地より販子の買出によるもの少く趕送日程三泊四日を要す今趕蹕子的二名にて牛三〇頭を趕送する場合其の經費左の如し。

宿泊料(食費を含む) 一夜・五〇、三夜一・五〇、二名分三・〇〇  
 趕蹕子的 一名 二二五(一〇〇斤一・五〇)  
 飼料費一日一頭、谷草一五斤

豆料 一升 一・一八 (一斗 一・八〇)  
 計 四〇五 三日分一・二二五 三〇頭分 三六・四五  
 雜費(趕蹕子的への心付) 一名 一・〇〇 計 二・〇〇  
 合計 四一・四五

四四

當地に於ける牛、馬、猪店は前記錦縣牛、羊販賣組合店以外は何れも個人經營にして資本額は三〇〇圓乃至五〇〇圓從事員二名乃至五名程度なり、本年(康德二年)開業せるもの多きを以て其の取扱頭數も僅少なり。  
 肉畜取引の方法は洮南、通遼等と同じく立相場にして朝陽、凌源、凌南の原産地方に於ては當地より一斤に付各三錢—四錢安値なり、當地に於ける畜種別相場左の如し。

牛 目算肉量一斤に付 國幣 二・〇〇  
 綿、山羊 同 二・〇〇  
 豚 同 一・七〇—一・八〇  
 馬 同 二・〇〇—二・三〇

右の如く當地出廻肉畜の一頭平均肉量牛二二〇斤即ち其の價格四四圓となり綿、山羊二五斤價格五圓豚一〇〇斤即ち一七圓—一八圓馬二〇〇斤内外なるを以て二〇圓—二三圓の取引價格となる。  
 當地の牛馬猪店左の如し。

住 所 商 號 氏 名  
 錦縣北關剛井胡同 錦縣牛、羊販賣組合店 古賀 惠一 孚三

同	洪升胡同	榮 陞 牛 店	夏 相 順
同	馬 市	公 興 會	楊 國 興
同	西門外	錦州生豚賣買所	薄 井 壽
同	同	邱 猪 店	邱 鳳 魁
同	東門外	福 陞 合	楊 景 雲

當地に於ける屠宰場は舊軍閥當時民國十四年六月城外市街地附近に二、三箇所縣營にて設置せられたるも何れの屠場に於ても屠畜の検査を行ふことなく單に徵稅の爲小屋を設け收稅の一機關に過ぎ、衛生施設なく豚屠場は僅か二五坪の矮小なる純支那家屋を利用して作業場となし牛、羊屠場に至りては屋外地上に於て屠殺解體共に行はれ蠅、野犬雲集し汚物は腐敗し屠畜の悲鳴は近隣を壓する等其の非衛生的なること甚しかりしも大同元年屠宰場改革の機運至り同年七月屠宰場新築決定し翌八月城外東北角に敷地三、〇〇〇坪、建物總坪七五坪資本額大洋一、三二〇圓一二錢を投じ豚屠場建設に着工し同年十一月十五日より屠殺作業を開始するに至れり、越えて大同二年四月北關萬安胡同に資本金國幣三、五〇〇圓を以て牛、羊屠場の起工同年七月回教徒による牛、羊の屠殺作業の開始を見茲に衛生的諸施設をなせる現縣營錦縣屠宰場の設置を見るに至れり。

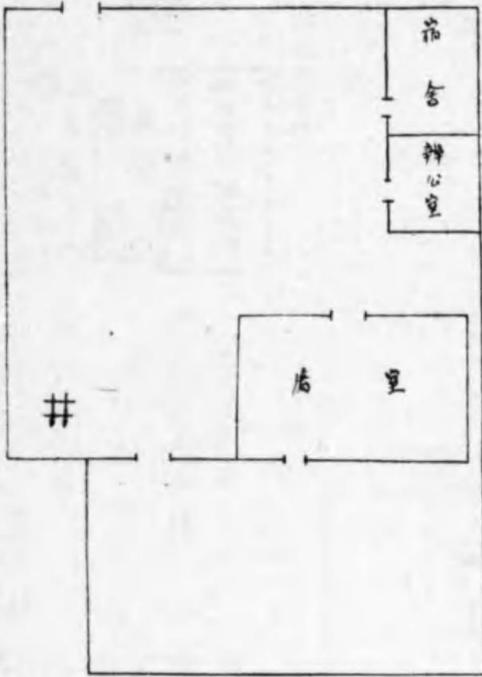
屠宰場従事員  
 主 任 一名 月額 三〇・〇〇  
 獸 醫 一名(日人) 七〇・〇〇  
 備 員 二名 各 一六・〇〇

四五



記載せし如く老衰、不具、廢疾のものなるを以て屠肉歩止も一定せざるも普通三〇%程度のものゝ如し。

精肉小賣相場



當地に於ける肉商は牛、羊肉商二八戸、豚肉商六五戸計九三戸の多きに達し卸賣専門のものなく何れも卸、小賣兼業者にして小資本國幣四〇圓―五〇圓程度のもの普通とす牛肉商の如きは一戸一頭を購入し得ず二、三戸共同にて一頭を屠殺し精肉を分割販賣なすもの多し  
牛、羊肉商は何れも回教徒にして露天市場及市内交通頻繁なる十字路等に於て跨車を以て販賣し隨時移動行商をなす。

精肉小賣相場は各畜種により品質別に分類することなく季節によりては多少の高低あり一般に冬季は低廉にして夏季は高價なるも大體に於て一斤の小賣値段左の如し。

當地に於ける精肉販賣業者の主なるもの左の如し。

類別	住	所	商號	氏名		
牛肉	綿、山羊肉	・二五	豚肉	・二五	馬肉	・二五
牛、羊肉商	錦縣	紅井胡同	常佐	舟		
同	牛心胡同	同	常惠	民		

牛、羊肉商	錦縣	大長青胡同	常	德	五
同	牛心胡同	同	常	德	德
同	大長青胡同	同	常	德	德
同	牛心胡同	同	常	德	德
同	小長青胡同	同	常	德	德
同	牛心胡同	同	常	德	德
同	興隆街	同	常	德	德
同	小長青胡同	同	常	德	德
同	四棵樹胡同	同	常	德	德
同	興隆街	同	常	德	德
同	大長青胡同	同	常	德	德
同	兵營胡同	同	常	德	德
同	紅井胡同	同	常	德	德
同	發達胡同	同	常	德	德
同	紅井胡同	同	常	德	德
同	紅井胡同	同	常	德	德
同	大長青胡同	同	常	德	德



四、豚

南滿各都市に出廻る豚は滿洲在來種及「パークシャー」雜種にして總出廻頭數二七六、五〇〇頭乃至三〇五、三〇〇頭なり。

滿洲在來種は關東州内を除く滿鐵附屬地各都市に於て屠殺さるゝ豚の大部を占め「パークシャー」雜種は關東州内及滿鐵附屬地に於ても滿鐵種豚場の設置ある都市並其の近傍都市に於て屠殺せられ其の出廻頭數一〇〇、〇〇〇頭と思考せらる。

(一) 大連

一、肉用家畜の需要及出廻頭數

南滿第一の商業都市たる大連市は大連港を擁し人口三三萬を算する大都市として市内に於ける肉の消費量も極めて多し且日本内地輸出肉牛の屠殺をも行へり。今大連市立屠畜場最近六ヶ年間畜種別屠殺頭數を見るに左の如し。

年 度	畜 種 別						計
	牛	馬	騾	驢	綿 羊	山 羊	
昭和五年度	17,313	4,925	4,838	2,022	1,022	1,522	27,700
昭和六年度	22,626	7,111	6,282	2,922	1,702	1,701	33,661
昭和七年度	25,437	7,107	6,322	2,022	1,022	1,201	37,200
昭和八年度	19,322	7,820	8,722	2,522	1,222	1,222	30,831

昭和九年度	17,766	7,266	7,777	2,522	1,522	1,222	30,114
昭和十年度	16,025	8,222	8,222	2,222	1,222	1,222	27,222

右屠殺數及肉商其他調査の結果當地に出廻る肉用家畜の頭數は一ヶ年牛二〇、〇〇〇頭乃至二五、〇〇〇頭、馬、騾、二、〇〇〇頭乃至二、二〇〇頭、綿、山羊二、八〇〇頭乃至三、〇〇〇頭、豚四〇、〇〇〇頭乃至四五、〇〇〇頭と思考せらる。右表屠殺牛中日本輸出向屠殺牛左表の如し。

年 度	正 區		肉 區		枝 區		肉 區		合 計	
	頭 數	肉 量	頭 數	肉 量	頭 數	肉 量	頭 數	肉 量	頭 數	肉 量
昭和五年度	5,227	12,222	5,227	12,222	5,227	12,222	5,227	12,222	20,910	49,776
昭和六年度	8,222	18,222	8,222	18,222	8,222	18,222	8,222	18,222	32,910	77,776
昭和七年度	11,222	25,222	11,222	25,222	11,222	25,222	11,222	25,222	44,910	107,776
昭和八年度	10,222	23,222	10,222	23,222	10,222	23,222	10,222	23,222	41,910	97,776
昭和九年度	6,222	14,222	6,222	14,222	6,222	14,222	6,222	14,222	25,910	62,776

二、肉用家畜の種類産地並出廻の経路

牛、大連市に出廻る牛は大別して滿洲牛、蒙古牛及山東牛とす、滿洲牛は主として關東州内及州外復、莊河兩縣産の所謂金州牛にして屠殺牛中の六〇%を占め普蘭店、鏡子窩の家畜市場を経て出廻り、蒙古牛は洮南附近各縣の舊東部内蒙古産牛にして肥育をなせるもの多く屠殺牛の二〇%に過ぎず主として奉天、鐵嶺、新京方面より出廻るものな



り、尙山東牛は濟南方面産のものにして屠殺牛中の約二〇%なり龍口を經由輸入せらる。

馬、騾、驢、關東州内、滿洲國各地及蒙古産のものにして一旦役用として當市場に出廻り或期間使役せられたる後屠殺せらるゝものなるも州内及南滿洲のもの多きが如し。

綿、山羊、主として州内及南滿洲産の滿洲在來種多し。

豚、豚は關東州内各地産「パークシャー」雜種を主とし屠殺豚の約九五%を占め滿洲在來種は僅に五%に過ぎず。

### 三、肉用家畜の取引状況及相場

牛、當地には生牛のみの取引をなす牛商人なく肉商の直接賣買により取引行はる即ち前述滿洲牛は普蘭店、魏子窩の家畜市場に於て買付當市場に程送せられ蒙古牛は各肉商店員を原産地及奉天、鐵嶺、新京等の主要市場に派遣し又は同地方牛商人と特約の上購入汽車輸送するものあり。

取引相場は滿洲國流の立牛相場にして目測評價取引せられ肉量一〇〇匁に對する建値は輸出向枝肉量二〇貫一三〇貫もの一三錢、四〇貫もの一四錢、五〇貫もの一四一五錢、六〇貫もの一六錢、七〇貫もの一七錢、市場小賣肉量六〇貫もの一七錢、七〇貫程度のもの一八一九錢の相場なるを以て評價額輸出向枝肉量五〇貫のものは一〇〇匁の相場一五錢を乗じたる七五匁となり市場小賣肉量六〇貫のものは一〇〇匁相場一七錢を乗じたる一〇二匁となる。

馬、騾、驢、は出廻の経路に於て述べたる如く當市場に出廻り或期間役用に供せられたる老廢のもの若は不慮の災害により使役に不堪に至りたるもの及失明馬にして取引肉量一斤に付小洋銀二〇錢即ち目算肉量一五貫(一〇〇斤)のもの評價額小洋銀二〇圓なり。

綿、山羊、も直接肉商の手により賣買せられ其相場肉量一斤に付小洋銀七〇錢にして目算肉量三貫(二〇斤)のもの價格一四・〇〇となる。

豚、も肉商直接附近飼養農家より購入し賣買相場肉量一斤に付小洋銀二八錢目算肉量一五貫に付取引價額二八・〇〇なり。

### 四、屠肉品質及屠肉歩止

牛、大連市に出廻る牛は前述の如く滿洲牛、蒙古牛及山東牛とし滿洲牛は所謂草牛にして肉質中等以下のもの多く屠肉歩止も平均四三%なり、蒙古牛及山東牛は何れも市内公設市場に於ける内地人向小賣の目的にて或程度の肥育をなせる所謂喂牛にして滿洲牛に比し肉質良好にして上等に屬するもの多し屠肉歩止各平均五五%、蒙古牛の肥育をなせる所謂草牛は平均四七―五二%なり。

馬、騾、驢、の肉用として屠殺せらるゝものは肉質良好ならざるもの多く屠肉歩止も三〇%以下なり。

綿、山羊、も肥育をなせるものなく従て肉質中等以下にして屠肉歩止も三七―三八%程度なり。

豚、は屠殺豚中の九五%を「パークシャー」雜種で占め居るを以て肉質上等のもの多く僅に屠殺せらるゝ在來種も肥育をなせるもの多きを以て肉質中等以上に屬す屠肉歩止は平均「パークシャー」雜種五七―六〇%、在來種五〇%以下なり。

### 五、屠畜税其他屠殺に要する各種經費

大連屠畜場は市の經營に係り市役所の管理に屬し關東局の監督下にあり従て關東局より屠畜税、市役所より屠畜場使用料を左表の如く徴收す。

畜種別	區		屠	畜	稅	屠畜場使用料	合	計
	分	區						
大牛					二〇〇	二五〇		四五〇
中牛					一〇〇	一三〇		二三〇
小牛					五〇	五〇		一〇〇
馬					七〇	一二〇		一九〇
馬、綿、					四〇	八〇		一二〇
山					三〇	四〇		七〇
豚					六〇	八〇		一四〇
羊								

六、精肉小賣相場

大連市内に於ける精肉小賣相場は公設市場及市場外小賣とに僅少の差異あるも公設市場内賣價左の如し。

品	一等	二等	三等	四等
特等牛肉一〇〇匁に付	六八	六〇	四八	三六
一等	六八	六〇	四八	三六
二等	六〇	四八	三六	二二
三等	四八	三六	二二	
四等	三六	二二		

品	價格
馬肉及羊肉	馬肉一斤に付 小洋銀 二二三—二二四
羊肉	同 七〇
豚肉	同 四二
上等豚肉一〇〇匁に付	同 四二
並等豚肉	同 四〇

七、精肉輸出入及小賣業者

大連市に於ける精肉輸出入及小賣業者の主なるものを挙げれば次の如し。

輸出入業者	小賣業者
大連市若狹町八番地ノ二	大連市大龍街二〇番地
同 常盤町三八ノ二三	同 盤城町六八番地
同 大正通二七番地	
同 榮町二番地ノ二三	
同 大龍街二〇番地	
山田 常吉	曹 正禮
白杵 伊三郎	曹 潤
大久保 正登	王 潤
小早川 貞三	王 潤
曹 正禮	王 潤

馬 肉  
羊 肉  
豚 肉

大連市得勝街二番地  
同 平和街四四番地  
同 大龍街六八番地  
同 橋立町七番地  
同 尾上町五二番地  
同 橋立町七番地  
同 大龍街一三番地  
同 奥町六八番地  
同 大龍街二〇番地  
同 信濃町市場六一號  
同 盤城町六八番地  
同 西崗子市場四九號  
同 元町一四四番地  
同 香爐礁一區二番地  
同 泰山街一番地  
同 元町一三〇番地  
同 千代田町市場一六號

馬 劉 秀 峰  
石 雲 財  
許 圭 山  
崔 東 川  
初 潤 亭  
曲 振 東  
李 德 明  
曹 正 禮  
馬 省 三  
王 潤 齊  
于 丕 顯  
王 欣 東  
劉 應 財  
王 義 堂  
冷 書 鴻  
姜 永 津

(二) 旅 順

一、肉用家畜の需要及出廻頭數  
旅順市に於ける最近六年間の畜種別屠殺頭數左の如し。

年次	畜種別						計
	牛	馬	騾	驢	綿、山羊	豚	
昭和五年	五七六				四七	三九七	四九六
同 六年	五九三				三三	三六五	四八四
同 七年	一五九				四三	三〇〇	四〇一
同 八年	一一四				二〇	一三四	三三四
同 九年	五九〇				二六	一五	三九三
同 十年	三九六				一四	二五	三九七

同 東山町四區西一〇號 張 增 光  
同 千代田町六番地 于 仁 宗

右表による屠殺頭數及當地肉商等に就調査せる結果旅順市に於ける一箇年肉用家畜の出廻頭數は牛一、五〇〇頭乃至一、九〇〇頭、馬、騾、驢二〇〇頭内外、綿、山羊三五〇頭乃至五〇〇頭、豚五、〇〇〇頭と思料す。

二、肉用家畜の種類産地並出廻の経路



普蘭店に於ける最近六年間の畜種別屠殺頭數左の如し。

年次	畜種別	牛	馬	騾	驢	綿	羊	山	羊	豚	計
昭和五年		四六	七	一六	二七	二五	五六	一四七	一六三	一七〇	一六二〇
同 六年		五〇	一	一六	二七	二五	五六	一四七	一六三	一七〇	一六三〇
同 七年		六六	二	二五	二八	三〇	五二	一四七	一六三	一七〇	一七〇〇
同 八年		八二	七	二九	三二	三五	五五	一五〇	一六三	一七〇	一七〇〇
同 九年		七三	四	二八	三〇	三五	五二	一四七	一六三	一七〇	一七〇〇
同 十年		四七	一	一六	二七	二五	五六	一四七	一六三	一七〇	一六二〇

屠殺頭數其他調査により普蘭店に出廻る肉用家畜の頭數は一箇年牛一、〇〇〇頭内外、馬、騾、驢二五〇頭乃至三〇〇頭、綿、山羊一、〇〇〇頭乃至一、二〇〇頭、豚一七、〇〇〇頭乃至二〇、〇〇〇頭なるべし。

二、肉用家畜の種類、産地並出廻の経路

牛、普蘭店地方は滿洲牛(金州牛)の産地にして當地に於ける屠殺牛は概ね滿洲牛なりとす、蒙古牛の移入は極めて稀なり。

馬、騾、驢、綿、山羊、豚の種類産地並出廻の経路及取引状況、相場、屠肉品質、屠肉歩止等何れも大連、旅順に於けるものに大差なし。

三、屠畜税其他屠殺に要する各種経費

當屠畜場は普蘭店會の經營に係り關東局の監督下にあり従て關東局に屠畜税、普蘭店會に屠場使用料を納入す。屠畜税は大連、旅順に同じく屠場使用料は左の如し(各一頭に付小洋銀)

牛 一・八〇 馬、騾 一・二〇 驢、豚 八〇 綿、山羊 六〇

四、精肉 小賣相場

普蘭店に於ける精肉小賣相場左の如し。

牛 肉 一斤(一六〇匁)に付 三二二

馬 肉 同 小洋銀 二五―二八

綿、山羊 肉 同 同 五五―六〇

豚 肉 同 同 四二

五、精肉 小賣業者

普蘭店に於ける精肉小賣業者の主なるものは次の如し。

牛、羊 肉 普蘭店會豐榮街

豚 肉 同 平安街市場

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

馬 德 王 寶 祥 俊

馬 青 山 山

宋 金 山

張 文 會

王 安 有

普蘭店會平安街市場

六四

謝德財 徐德全 宋振鐸 曹傳程 于萬春 程文九

(四) 營口

一、肉用家畜の需要及出廻

營口に於ける最近三年間の畜種別屠殺頭數左表の如し。

年次	畜種別			計
	牛	綿、山羊	豚	
大同元年	四、三三六	一、九七〇	一四、五三五	二〇、八四一
大同二年	四、九八五	一、九七五	一六、〇五四	二三、〇一四
康德元年	四、六九六	一、九三〇	一六、九五四	二三、五八〇

右屠殺頭數其他調査の結果營口に出廻る肉用家畜の頭數は一箇年牛五、〇〇〇頭内外、綿、山羊二、〇〇〇頭、豚二五、〇〇〇頭なるべし。

二、肉用家畜の種類産地並出廻の経路

牛、營口に出廻る牛は錦州省義、錦西兩縣及附近農村産の滿洲牛を主とし、通遼、開魯地方より移入せらるゝ蒙古牛は屠殺牛中の三〇%に過ぎず、

綿、山羊も附近農村及錦州省各縣産の在來種を主とす。

豚、は錦州省黒山、臺安、盤山、北鎮各縣及附近農村産の「パークシヤー」雜種及滿洲在來種にして「パークシヤー」雜種漸次増加の傾向なり。

三、肉用家畜の取引狀況及相場

營口に於ける肉用家畜の取引は生畜商及肉商直接前項記載の産地若は集散市場に至り購入の上汽車輸送或は陸送により當市場に出廻るものなり。

取引相場

牛、目肉算量一斤に付 草牛國幣 円 二六・二八 喂牛 円 三〇  
 綿、山羊 同 円 三〇  
 豚、生體重一斤に付 円 一三一・一五

四、肉用家畜の屠肉品質及屠肉歩止

牛、營口に出廻る牛は前述の如く滿洲牛及蒙古牛とし滿洲牛は肥育をなせるもの少く何れも草牛なるを以て其の屠肉品質も劣等なり蒙古牛は滿洲牛に比し或程度の肥育を行ひたるものあり従て肉質も多少滿洲牛の上位にあるも大體に於て當地に於ける屠牛品質は良好ならざるもの多し、屠肉歩止は滿洲牛四五%蒙古牛五〇%程度なり。

綿、山羊、肉質中等以下にして屠肉歩止三七%なり。  
 豚、屠肉品質は「パークシャー」雜種の増加に伴ひ向上せられつゝあり、最近在來種も屠殺前の肥育行はれ居るを以て一般に肉質中等以上のもの多し、屠肉歩止は平均五五%なり。

五、屠畜捐其他屠殺に要する各種經費

營口屠宰場は滿洲國側の經營に係り縣公署の管理に屬し縣公署へ收納の各捐左表の如し

畜種別	捐目	屠宰捐	肉捐	祀典捐	馬路捐	合計
綿、山羊	牛	二・二〇	一・二〇	二・二〇	二・六四	三・八六四
	豚	一・〇〇	六〇	二〇	〇七二	九九二
						一・八二

六、精肉小賣相場

當地に於ける精肉小賣相場左の如し。

滿鐵附屬地	牛 肉	一〇〇匁に付	地 肉	二四
	豚 肉	同	大連移入肉	四〇
滿洲國側	豚 肉	同		三四

牛 肉 一斤に付

國幣

二五

綿、山羊 肉 同

三〇

豚 肉 同

二六

七、精肉小賣業者

當地に於ける精肉小賣業者の主なるもの左の如し。

牛、羊 肉	營口新市街南木街	村 田 商店
	營口二署雙廟子街	何 子 珍
	同	戴 明 文
	同 一署老一局胡同	盛 化 洲
豚 肉	同 三署大官塘南街	呂 達 三

(五) 鞍 山

一、肉用家畜の需要及出廻頭數

當地に於ける最近五年間の畜種別屠殺頭數左表の如し。

附屬地内滿鐵屠畜場

昭 和 六 年 度	畜 種 別		馬	騾	驢	綿 羊	山 羊	豚	計
	年 度	種 別							
五	牛	馬	一	一	一	一	一	一	九
六	牛	馬	一	一	一	一	一	一	九
									一、五

昭和七年度	六六	一	一	一	一〇九	一六九
同八年度	六三	一	一	一〇	九	一七三
同九年度	一〇六	五	三	三	九	一七五
同十年度	一四八	一〇	一〇	六	九	一八〇
計	三六三	二五	一六	三〇	二九	二〇九

六八

滿洲國側屠宰場に於ける大同二年屠畜數

年次	畜種別	牛	馬	騾	驢	綿、山羊	豚	計
大同二年		三三	六	二五	九	五	二	一〇二

附屬地及滿洲國側屠畜數其他生畜商、肉商等調査の結果鞍山に出廻る肉用家畜の頭數は一ヶ年牛一、〇〇〇頭乃至一、二〇〇頭、馬、騾、驢三〇〇頭内外、綿、山羊二〇〇頭乃至三〇〇頭、豚三、五〇〇頭と思考せらる。

二、肉用家畜の種類、産地並出廻の経路

牛、主として海城、千山、大屯、劉二堡其他附近部落より出廻る土産の滿洲牛なるも最近奉天、遼陽方面より一箇年四〇〇頭乃至五〇〇頭の移入あり。  
 馬、騾、驢、附近部落産の滿洲種にして農耕其他に使役後屠殺せらる。  
 綿、山羊、も附近部落産の在來種を主とす。  
 豚、は主に劉二堡、八家子、二臺子、三臺子、雙臺子、千山等附近部落産の「パークシャー」雜種にして當地には滿

鐵種豚場設置せられ居たる關係上「パークシャー」雜種の屠殺せらるゝもの多し。

- 一、肉用家畜の取引狀況及相場、屠肉品質、屠肉歩止等は營口に於けるものに大差なし。
- 二、屠畜税其他屠殺に要する各種経費

附屬地内滿鐵屠畜場は滿鐵地方事務所の管理に屬し、關東局の監督下にあり滿鐵地方事務所に納入する屠殺手数料左の如し(各一頭に付)

- 牛 一・五〇 犏、馬、騾 一・五〇 驢 一・〇〇
- 綿、山羊 四〇 豚 八〇

滿洲國側屠宰場各捐左表の如し。

捐目	畜種別	牛	馬	騾	驢	綿、山羊	豚
屠宰局納入税		一・五〇	一・五〇	一・五〇	一・五〇	一・〇〇	一・〇〇
地方局納入税		一・五〇	一・五〇	一・五〇	一・五〇	一・〇〇	一・〇〇
地稅		一・五〇	一・五〇	一・五〇	一・五〇	一・〇〇	一・〇〇
縣公署納入計		一・五〇	一・五〇	一・五〇	一・五〇	一・〇〇	一・〇〇

五、精肉小賣相場

當地に於ける精肉小賣相場左の如し。

滿鐵附屬地  
牛肉一〇〇匁に付



豚肉一〇〇匁に付 四〇  
 満洲國側  
 上肉 三十四  
 中肉 三十一  
 下肉 三〇  
 七〇

牛 肉 一斤に付 國幣 二六  
 馬 肉 同 二〇  
 羊 肉 同 三六  
 豚 肉 同 三〇

六精肉小賣業者

牛、羊 肉 鞍山南八番町  
 馬 肉 同 北二番町  
 豚 肉 同 南九番町  
 同 北二番町  
 同 北五番町  
 同 南八番町  
 楊鳳桐  
 劉殿榮  
 王廷雲  
 紀魁陞  
 李香久  
 王德貴

(六) 遼 陽

一、肉用家畜の需要及出廻頭數

當地滿鐵屠畜場及滿洲國側屠畜場に於ける最近四年間の畜種別屠殺頭數左の如し。  
 附屬地内滿鐵屠畜場

年 度	畜 種 別	牛	馬	騾	驢	豚	計
昭和七年度		八	二〇	三	三	三三	六六
同八年度		三七	一四八	一	一	三七	六八
同九年度		四七	五七	一	一	二七	一〇六
同十年度		一五	四八	三	一	四〇	一〇六

滿洲國側屠畜場

年 次	畜 種 別	牛	馬、騾	驢	綿、山羊	豚	計
大同元年		四〇八	一四九	五	六五〇	五二二	一〇〇八
同二年		四九三	二七九	一七	一、一〇一	四九四	一、一八二
康德元年		四九三	九	三	一、八六	六三九	一、五三三

右兩屠畜場に於ける屠殺數其他調査に基き當地に出廻る肉用家畜の頭數は一箇年大約牛五、五〇〇頭乃至六、〇〇〇頭、騾、驢、一、〇〇〇頭内外、綿、山羊二、〇〇〇頭乃至二、三〇〇頭、豚六、五〇〇頭乃至七、〇〇〇頭なり。

二、肉用家畜の種類、産地並出廻の経路

鞍山に於けるものに等しく主として附近農村産の滿洲種にして豚は「パークシャー」雜種の出廻るもの營口、鞍山に比し僅少なり。

三、肉用家畜の取引状況及相場

當地に於ける肉用家畜の取引は鞍山に同じく生畜商若は肉商直接附近農村に買出に至り當市場に運送す。

取引相場

牛	目算肉量一斤に付	國幣	草牛	●三〇	喂牛	●三五
馬	同			●一五		
綿、山羊	同			●三〇		
豚	生體重一斤に付			●二〇		

四、肉用家畜の屠肉品質及屠肉歩止

當地に於ける肉用家畜の屠肉品質は營口、鞍山に同程度の中等肉を主とし屠肉歩止も大體に於て右に同じ。

五、屠畜税其他屠殺に要する各種經費

附屬地内滿鐵屠畜場は沿線各地とも同様に於て鞍山に等し。

滿洲國側屠畜場各指左表の如し。

捐税	畜種別	牛	馬、騾	驢	綿、山羊	豚
屠畜率	從價の $\frac{6}{100}$	從價の $\frac{6}{100}$	從價の $\frac{3}{100}$	從價の $\frac{3}{100}$	從價の $\frac{3}{100}$	從價の $\frac{3}{100}$
屠畜費		●一〇〇	●一〇〇	●一〇〇	●一〇〇	●一〇〇
屠畜費		●一〇〇	●一〇〇	●一〇〇	●一〇〇	●一〇〇
屠畜費		●一〇〇	●一〇〇	●一〇〇	●一〇〇	●一〇〇
屠畜費		●一〇〇	●一〇〇	●一〇〇	●一〇〇	●一〇〇

六、精肉小賣相場

滿鐵附屬地	肉	滿洲國側	肉	外口	肉
牛	一斤に付	一斤に付	一斤に付	●二八	●二八
内口	●三〇	●二六	●二六	●二八	●二八
中口	●二六	●二六	●二六	●二八	●二八
馬	一斤に付	一斤に付	一斤に付	●二〇	●二〇
羊	一斤に付	一斤に付	一斤に付	●二八	●二八
豚	一斤に付	一斤に付	一斤に付	●二八	●二八
牛	一斤に付	一斤に付	一斤に付	●二八	●二八
羊	一斤に付	一斤に付	一斤に付	●二八	●二八
豚	一斤に付	一斤に付	一斤に付	●二八	●二八

七、精肉小賣業者

滿鐵附屬地	牛	肉	遼陽櫻木町消費組合前	楊春富
			同 昭 and 通遼陽神社前	王壽山
			同 大和通	周鴻章
			同 同 公會堂	平野左
			同 本町	張春廷
			同 大和通	周鴻章
			同 本町三五番地	楊永盛
滿洲國側	牛、羊	肉	遼陽南街	金奉周
			肉	尹占一
			同 平康里	楊德清
			同 魚市口	王子奎

(七) 撫順

一、肉用家畜の需要及出廻頭數

當地は滿鐵撫順炭礦の所在地にして是に附帶せる各種工業の施設あり、逐年人口の増加に伴ひ肉の消費量も漸増の傾向にあり、今最近五年間の滿鐵屠畜場及滿洲國側屠畜場に於ける畜種別屠殺頭數を表示せば左の如し。

附屬地内滿鐵屠畜場

年度	畜種別	牛	馬	騾	驢	綿	羊	山羊	羊	豚	計
昭和六年度		一、五八八	九	七	三	二八	三	三	三	五〇三	五九一
同七年度		二、一〇五	五	六	五	三〇〇	三	三	三	五九一	七二七
同八年度		二、七二七	三	元	七	二六七	二六	二六	二六	五六一	八五〇
同九年度		三、一五〇	七	六	七	二七	二〇三	二〇三	二〇三	六七一	一〇一〇
同十年		四、一七五	三	六	八	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	七一五	一、九六〇

滿洲國側屠畜場

年度	畜種別	牛	綿、山羊	豚	計
大同二年		三、二二七	一、五〇六	六、三六八	一一、〇九一
康德元年		二、八二六	一、一一五	七、六六〇	一一、六〇一

右兩屠畜場に於ける屠殺數及生畜商、肉商其他に就て調査せる結果一箇年牛六、五〇〇頭乃至七、〇〇〇頭、馬、騾、驢、二〇〇頭乃至二五〇頭、綿、山羊一、五〇〇頭内外、豚一五、〇〇〇頭乃至二〇、〇〇〇頭と史料す。

二、肉用家畜の種類産地並出廻の経路

主に附近農村産の滿洲種なるも洮南、通遼方面より移入せらるゝ蒙古牛一ヶ年大約滿鐵屠畜場屠殺牛の二〇%即ち六〇〇頭乃至六五〇頭あり、豚も當地には滿鐵種豚場あり「パークシャー」雜種の屠殺さるゝもの多し。

三、肉用家畜の取引状況及相場

當地には回教徒牛商人多く生牛の賣買、移出入、肥育を業とし附近農村及通遼、洮南等生産地市場に至り購入し廻送若は汽車輸送を以て當市場に出廻り馬、豚は何れも肉商直接附近農村より買出し來り豚は二、三箇月間肥育の上屠殺し居れり。

取引相場

牛	目算肉量一斤に付	國幣	草牛	●二一〇	喂牛	●二二一
馬	同			●一八		
綿、山羊	同			●二三		
豚	同	●一八(生體重による場合)	一斤に付	●二五	●一六	

四、肉用家畜の屠肉品質及屠肉歩止

當地に於ては肥育牛の屠殺さるゝもの比較的多く從て屠肉品質も上等のもの多し、馬、羊は他地と略同様なるも豚は前記の如く滿鐵種豚場あり「パークシャー」雜種の屠殺さるゝもの多く在來種と雖或程度肥育の上屠殺の爲肉質は大體に於て中等以上に屬す。屠肉歩止は大體營口の項に於て記載せし如く滿洲牛四五%、蒙古牛四七―五〇%、肥育をなせるもの五三%程度なり、綿、山羊三七―三八%、豚五五―六〇%なり。

五、屠畜税其他屠殺に要する各種經費

附屬地内滿鐵屠畜場は遼陽に於けるものと同じ。

滿洲國側屠宰場各捐左表の如し。

畜種別	屠宰捐	肉捐	祀典費	計
綿、牛	一・五〇	一・〇〇	●二五	二・六〇
山、羊	●二〇	●一五	●〇五	●四〇
豚	●四〇	●四〇	●二〇	●九〇

備考 一、税捐局納入の國税は遼陽に同じ。

六、精肉小賣相場

附屬地内公設市場

牛	肉	一〇〇匁に付	外ロース	●三八	ラム	●三二
内ロース	●四八	並	肉	●二四	スジ	●一〇
上	●二六	豚	肉	●三六		
豚	一〇〇匁に付					

附屬地内公設市場外滿人商店

牛	肉	一斤に付	國幣	●二二一	●二四
---	---	------	----	------	-----

馬肉	一斤に付	國幣	・二六	古賀源四郎
羊肉	同	同	・三〇	萬子榮
豚肉	同	同	・二六	胡紹常
滿洲國側	一斤に付	國幣	・二四	西村茂八
牛	同	同	・三五	馬德有
羊	同	同	・二六	李景文
豚	同	同	・二六	王慶坦
附屬地内	撫順東五條通一六			
牛	同			
馬	同			
豚	同			

七、精肉小賣業者

當地に於ける精肉小賣業者の主なるもの左の如し。

滿洲國側	同	歡樂園四	劉慶安
牛、羊、肉	同	清真寺胡同	楊永山
豚肉	同	千金寨市場内	馬子玉
	同	市場西門外	吳秀珍
	同		楊發祥

(八) 安東

一、肉用家畜の需要及出廻頭數

鴨綠江を境し朝鮮新義州に對し滿鐵、鮮鐵の接續地にして木材の大集散地たる當地は人口二〇萬を算し市内に於ける肉の消費量も亦極めて多し、最近五年間の安東屠畜場に於ける畜種別屠殺頭數は左表の如し。

年次	畜種別	牛	馬	騾	驢	綿	羊	山	羊	豚	計
昭和六年		六九二	二五	三	二四二	二〇〇	一八〇	三六〇	三六〇	三三〇	三三〇
同七年		六五七	二五	三	二五九	一七三	二二三	三九五	三九五	三二〇	三二〇
同八年		六五四	三三	六	二六三	一七〇	二二〇	四一〇	四一〇	三三〇	三三〇
同九年		七六六	一四	九	一五九	一六	一六	一六	一六	一六	一六
同十年		九七二	三	九	二七二	二〇	一六	一六	一六	一六	一六

右屠畜數及生畜商、肉商其他屠畜場従事員等に就調査せる結果當地に出廻る肉用家畜の頭數は一箇年牛八、〇〇〇頭乃至九、〇〇〇頭、馬、騾二〇〇頭乃至二五〇頭、綿、山羊二、五〇〇頭乃至三、〇〇〇頭、豚一三、〇〇〇頭乃至一五、〇〇〇頭と思考せらる。

二、肉用家畜の種類産地並出廻の経路

牛、當地に於て屠殺せらるゝ牛は大別して滿洲牛、蒙古牛及朝鮮牛とす。滿洲牛は主に安東沿線、臨江、通化、桓仁、寬甸各縣産のものにして屠殺牛中の九〇%を占め、蒙古牛は洮南、通遼、新京、奉天の各市場より買出し來り屠殺牛中の六%程度、朝鮮牛は二、三年前迄は相當數の移入ありたるも昭和九年に於ては僅に二〇〇頭以内即ち屠殺牛中の四%に過ぎず。

馬、騾、驢、綿、山羊、豚、何れも安奉沿線及附近各縣産の滿洲在來種多し。

三、肉用家畜の取引狀況及相場

生畜商及肉商直接前記原産地並集散市場に至り購入し移送若は汽車輸送により當市場に出廻る。

取引相場

牛	口算肉量一斤に付	國幣	草牛	●二五	●三二
馬、騾	一頭に付		喂牛	●二〇〇乃至二五〇〇	●三二
驢	同			一〇〇〇乃至一五〇〇	
綿、山羊	口算肉量一斤に付			●三〇	
豚	生體重 同			●一五	

四、肉用家畜の屠肉品質及屠肉歩止

當地に於ける屠肉品質は一般に中等に屬す、就中朝鮮牛及滿蒙肥育牛は肉質上等のもの多し、屠肉歩止は大體に於て撫順の項に於て記述せしものと異らざるも朝鮮牛の歩止は平均滿蒙肥育牛と大差なく五四%程度なり。

五、屠畜税其他屠殺に要する各種經費

安東屠畜場は日滿合辦組織にして附屬地内商工會議所、滿洲國側商務會に於て經營し關東局及縣公署の監督下にあり屠畜検査料其他諸税左表の如し。

畜種別	屠畜検査料	屠殺(斷頭)料	牲畜税	印花税	印紙税	營業税	皮税	附加税	計
牛	三〇	六〇	二〇	六	〇	六	五	六	八二
馬	一五	六	二〇	六	〇	六	五	六	六二
騾	一五	六	二〇	六	〇	六	五	六	五九
驢	七	六	二〇	六	〇	六	五	六	一七
綿、山羊	三	六	二〇	六	〇	六	五	六	三二
豚	九	六	二〇	六	〇	六	五	六	五九

備考

一、屠畜検査料は屠畜場收入とす。

二、屠殺(斷頭)料は回教寺院經費の一部に充つ。

- 三、牲畜税以下皮税に至る迄は國税にして税捐局徴收す。
- 四、附加税は縣公署に於て一般地方税として徴收す。
- 五、附屬地營業者(滿人商を含む)は屠畜検査料、屠殺(斷頸)料及皮税のみを負担し其他諸税は凡て免税とす。
- 六、滿洲國側營業者は各欄の料金、税金總てを負担す。

六、精肉小賣相場

滿鐵附屬地		牛	肉	一〇〇匁に付	
内	ロース	円	四〇	外	ロース
				円	三四
中	肉	・二六	ス	ジ	上
					肉
馬	肉	一〇〇匁に付			・三〇
豚	肉	同			・二六―・三四
滿洲國側		牛	肉	一斤に付	國幣
					・二五
馬	肉	同			・二〇
羊	肉	同			・四五
豚	肉	同			・三〇

七、精肉小賣業者

當地に於ける精肉小賣業者の主なるもの左の如し。

滿鐵附屬地		牛	肉	同	安東縣四番通公設市場	山田仙右衛門
牛、豚	肉	同				福元巳之助
豚	肉	同				陳子元
		同				木下常助
		同				趙士沂
		同				王天貴
滿洲國側		牛、羊	肉	同	縣前街	金玉山
豚	肉	同				馬鳳山
		同				馬錫金
		同				張維臣
		同				姜盛元
		同				崇健後街門牌二六號
		同				金陽街門牌三號
		同				興隆前街門牌七號
		同				菜市街門牌八〇號
		同				上川端町警第三二九
		同				警第二一八

(九) 本溪湖

一、肉用家畜の需要及出廻頭數

當地滿鐵屠畜場及滿洲國側屠宰場に於ける最近五年間の畜種別屠殺頭數左の如し。  
附屬地内滿鐵屠畜場

年度	畜種別	牛	馬	騾	驢	綿、山羊	豚	計
昭和六年度		三	二	二	二〇	一	六	二八
同七年度		三	三	三	二〇	一	三	四六
同八年度		二〇	三	四	九	一	三	四六
同九年度		三	三	三	七	一	三	二六
同十年度		三	三	三	七	一	三	二六
計		一六〇	一八	一八	一〇九	一	一七	二九〇

滿洲國側屠宰場

年度	畜種別	牛	綿、山羊	豚	計
大同二年		九一五	八九五	一、四九八	三、三〇八
康徳元年		七八〇	八六二	一、六〇四	三、二四六

右兩屠畜場に於ける屠殺數及其他調査により當地に出廻る肉用家畜頭數は一ヶ年牛一、二〇〇頭乃至一、五〇〇頭、馬、騾、驢一〇〇頭以内、綿、山羊一、〇〇〇頭内外、豚二、〇〇〇頭乃至二、三〇〇頭と推定さる。

二、肉用家畜の種類産地並出廻の経路

當地に出廻る肉用家畜は主に附近農村生産なるも牛は蒙古牛の奉天より移入せらるゝもの比較的多く屠殺牛中の四〇%を占め、豚は「パークシャー」雜種の屠殺せらるゝもの三〇%に及ぶ。

三、肉用家畜の取引狀況及相場

取引狀況は安東に同じく生畜商及肉商直接前記産地に至り購入の上當市場に出廻る。

取引相場

- 牛 目算肉量一斤に付 國幣 草牛 二一・二二 喂牛 二四
- 馬 一定せる相場なきも一頭の取引價格大體安東に同じ
- 綿、山羊 目算肉量一斤に付 一七
- 豚 生體重一斤に付 二〇

四、肉用家畜の屠肉品質及屠肉歩止

當地に於ける屠肉品質は中等以下にして奉天方面より移入せらる蒙古牛も肥育を行ふことなく従て肉質も良好ならざるもの多し、屠肉歩止牛四五%、豚五〇%程度なり。

五、屠畜税其他屠殺に要する各種經費

附屬地内滿鐵屠畜場は撫順に於けるものと同じ。

滿洲國側屠宰場各捐一頭分左の如し。

- 牛 二・二〇 綿、山羊 五五 豚 一・一〇
- 六、精肉小賣相場



滿鐵附屬地

牛	肉	一〇〇匁に付
内	肉	●三〇
外	肉	●二六
上	肉	●二〇
滿洲國例	肉	一〇〇匁に付
牛	肉	一斤に付
羊	肉	同
豚	肉	同
國幣	草牛	●二四
●二六	●二六	●二八
●二〇	●二六	
●二四	●二六	
●二六		

七、精肉小賣業者

當地に於ける精肉小賣業者は附屬地内に於ては滿鐵消費組合内賣店及市内に一軒あり、滿洲國側は何れも露天營業にして野菜市内に軒を連ね居るも大なるものなし。

(10) 奉天

奉天は南滿の中央に位置し滿鐵本線の中央主要驛にして奉山、奉吉諸鐵道の起終點たり。人口五八萬を算する大都市にして家畜及畜産物の集散、消費に於ても國內隨一の大市场たり。

一、肉用家畜の需要及出廻

奉天市屠宰場及附屬地内滿鐵屠宰場に於ける康德元年中月別屠殺頭數左の如し。

奉天市屠宰場

種別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
牛	二〇四	二〇五	一〇一	八三	五七	四五	四四	一〇〇	二〇三	一六〇	一九〇	一八五	一六六五
綿、山羊	六五	五〇	二四	二二	三三	一七	四〇	二七	五二	四八	四七	四七	二八五
豚	九〇	六三	五五	六五	七三	八八	六七	六六	八〇	五三	五九	六二	八二五

滿鐵屠宰場(自康德元年四月至康德二年三月分)

種別	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	計
牛	七六	五〇	五九	四六	七三	九八	一三三	九〇	八六	六九	三五	五九	八五〇
馬	二九	一九	一四	二五	六九	五五	八一	六〇	四九	五	一八	六	四八
騾	九	八	六	七	二九	一八	三一	三一	二七	二二	四	一〇	一九
綿	二二	一〇	七	一〇	六	一〇	三	八	一六	三	七	一〇	二九
山	一	一	三	四	三	八	一	五	二	一	一	二	八
豚	七九	一三	一八	一六	一三	一六	一〇	一〇	一七	一七	一四	一三	一八四

既往五年間畜種別屠殺頭數

奉天市屠宰場

年次	畜種別		牛	猪	綿、山、羊	豚	計
	頭數	肉量					
大元二年	一六、八九二	一三、三三五	一六、七六八	六〇、六二六	一一二、二五三	九〇、七五三	一一二、二五三
同 同 二年	二〇、三四五	一六、九六五	一一、八五六	八三、一一五	一一二、九三六	一一〇、三五二	一一〇、三五二
康德二年	一五、四九九	一一、〇四三	一一、〇四三	九二、八〇九			

滿鐵屠宰場

年次	畜種別		牛	猪	馬	騾	驢	綿、山、羊	豚	計
	頭數	肉量								
昭和六年	四、九〇六	五、	四、	一、七〇	三、	七、	一、	八、	一、	一、
同 同 七年	六、三二四	一、五	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、
同 同 八年	八、二二四	三、	二、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、
同 同 九年	一〇、一〇一	九、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、
同 同 十年	七、七七五	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、

右表屠殺牛中日本内地輸向屠殺牛左表の如し。

年次	仕向先		頭數	肉量	頭數	肉量	頭數	肉量	頭數	肉量	頭數	肉量	頭數	肉量	計
	門	司													
昭和六年	天	四、九〇六	四、	五、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、
同 同 七年	三、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、
同 同 八年	三、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、
同 同 九年	三、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、
同 同 十年	三、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、	一、

康徳元年中兩屠場に於ける屠殺數合計を示せば

屠場別	種類		牛	馬	騾	驢	綿、山、羊	豚	計
	頭數	肉量							
奉天市屠場	一六、	一六、	一六、	一六、	一六、	一六、	一六、	一六、	一六、
滿鐵屠場	一〇、	一〇、	一〇、	一〇、	一〇、	一〇、	一〇、	一〇、	一〇、
合計	二六、	二六、	二六、	二六、	二六、	二六、	二六、	二六、	二六、

奉天出廻牛中の蒙古牛及肥育牛の少數は更に大連、遼陽、安東、撫順等の南滿市場生肉商及肉商の買出により再移出されるものにして數年前に於ては一箇年二、五〇〇頭乃至三、〇〇〇頭に達せりと云ふも原産地方の資源薄の結果買出至難なると當市場消費の激増により康徳元年に於ける再移出數を當地牛、馬店に就調査せるに六五〇頭（肥育牛二四〇頭）に過ぎざる状態なり。

右兩屠畜場屠殺數及再移出數並生畜商に就調査せる結果に基き康徳元年一箇年間の當市場肉畜の出廻頭數を見るに牛二八、〇〇〇頭、馬、騾、驢七五〇頭、綿、山羊一四、三〇〇頭、豚九七、〇〇〇頭なり。

當地に出廻る肉畜は生産地市場より汽車輸送によるものを主とし理送によるもの少きは洮南、通遼、錦の項に於て詳述せし如し。

二、肉畜の取引機關

奉天に於ける肉畜の賣買は牛、猪店、家畜市場及肉商間に於て行はれ出廻肉畜の大部は當地牛、猪店買出人(老客)により生産地市場に於て買付の上當市場に輸送し來り自店內に繋留し肉商に賣付を行ふものなり、亦生産地市場生畜商の輸送若は理送なし來りたるものを宿泊せしめ當地肉商其他南滿市場よりの買出人との間に於ける賣買の斡旋及保證をなす。

家畜市場は滿鐵附屬地鐵道西に於て千代田通一〇番地居住日人井上彦三郎經營の奉天家畜市場あり、本市場業務規定及康徳元年に於ける家畜入場並賣買成立頭數左の如し。

奉天家畜市場業務規定

第一條 當家畜市場は奉天家畜市場と稱し事務所及取引市場を市内附屬地鐵道西に置く

第二條 當市場に於て賣買の目的とする家畜種類を左の通り定む

牛、馬、騾、驢、羊、豚

第三條 當市場の開場日時は毎日午前五時より午後三時迄とす

第四條 家畜賣買の取引は支那習慣に従ひ市場仲立人の手により之を行はしむ

第五條 當市場に於ける家畜賣買手数料を左の通り定む

一、牛、馬、騾 每一頭に付 各金壹圓二十錢也

一、驢 同 金七十錢也

一、豚 同 金三十錢也

一、羊 同 金二十錢也

前項手数料を變更せんとするときは監督官廳及滿鐵地方事務所に届出て認可を受くべきものとす

第六條 當市場に於て徵收する手数料は賣買成立と同時に賣主、買主より即時納入せしむ

第七條 當市場に於て市場仲立人たらんとするものは原籍、住所、姓名、年齢を明記したる願書を市場事務所提出し其の許可を受くべきものとす

第八條 市場仲立人の手数料は牛、馬、騾に對しては每一頭に付金五十錢其他は市場手数料の半額と定む

第九條 市場仲立人にして不正行爲ありたる場合は其輕重に従ひ左の方法により處分す

一、遣 責

二、入 場 禁 止

三、仲 立 取 消

第十條 家畜の代金は賣買成立と同時に受授決済なましむるものとす、但し賣買當事者合意のときは一定期間の延取引をなすことを得、此の場合の受授決済に付ては市場は其責を負はず

第十一條 當市場には左の様式の臺帳を備へ毎日賣買高を記載するものとす



牛、馬店に於ける手数料は牛、馬、騾二圓、驢一圓、綿、山羊二〇錢にして賣買主各方より折半徴收し、猪店の手數料は一頭に付三〇錢を賣主より徴收す。

當地出廻家畜中の牛は滿洲牛及蒙古牛にして其出廻頭數は當市場屠殺比率より見るに大同二年度に於て滿洲牛二五%蒙古牛七五%、康徳元年度に於ては滿洲牛六〇%蒙古牛四〇%の割合なる如く蒙古牛の出廻頭數は漸減の狀態なり馬、騾、驢、綿、山羊は何れも蒙古在來種にして豚は在來種の中、小型を主とするも近時「パークシャー」雜種の出廻あり、康徳元年度の屠殺比率は在來種七〇%、雜種三〇%を示せり。

三、出廻家畜の原産地及出廻の經路

蒙古牛は察哈爾省、興安南、西省、熱河省、錦州省の各省産のものにして主として市場牛店よりの老客により買付の上開魯、通遼、綏東、赤峰、葉柏壽、朝陽、洮南の中繼市場より一部は趕送せらるゝも大部は汽車輸送を以て出廻り滿洲牛及綿、山羊は奉天を中心とする省内各縣主として舊東邊道の山岳地帯にして附近各縣産のものは買出人により趕送せらるゝ外奉吉線朝陽鎮、山城鎮より汽車輸送により出廻るもの多し、豚は附近農村より買出さるもの及當地猪店の買店により滿鐵連京線遼陽—開原間並奉山沿線一帶産のもの各驛より汽車輸送により當市場に出廻るものとす。當地に於ける牛馬猪店は個人經營のもの多く資本額一千圓乃至二千圓、従業員五名乃至一〇名を普通とす。肉畜取引の方法は各地に同じく立相場にして畜種別一斤の建値大略左の如し。

- 牛 目算肉量一斤に付 國幣 甲 二〇一・二八
- 馬 同 一二一・一三
- 綿、山羊 同 二八

豚 生體重一斤に付

・一六

從て肉量三二〇斤の牛は六四圓—八九圓六〇錢となり、二〇〇斤の馬は二四圓—二六圓、綿、山羊肉量二五斤程度なるを以て七圓、豚は生體重一三〇斤内外のものを主とし其價格二〇圓八〇錢となる。

當地牛、馬店若は肉商により牛の肥育されるもの多く蒙古牛の出廻多かりし數年前に於ては一箇年一、〇〇〇頭—一、五〇〇頭に上りたる由なるも康徳元年に於ける肥育牛は五〇〇頭にも達せず。

當地に於ける主要なる牛、馬、猪店左の如し。

牛、馬、猪店	住 所	商 號
	奉天第九區保合堡	寶 聚 成
	同 小西關教軍場胡同	積 興 東
	同	寶 利 祥
	同 小西關屠獸場胡同	積 盛 東
	同 小西關向陽街	政 發 永
	同	裕 興 達
猪 店	奉天小西關大什字街	萬 慶 店
	同	同 合 店

奉天小西邊門外路北  
同 小西邊門外公園後  
同 大北邊門外沙士坑  
同 大北邊門外大街  
德 公 東 永  
興 議 昇 增  
盛 店 長 達

九六

四、屠 宰 場

當奉天に於ける屠宰場は附屬地内滿鐵經營及滿洲國側市政公所經營の二場あり。

1、滿鐵屠宰場

本場は大正二年九月奉天鐵西芳野通に創設せられ爾來逐年市街の發展に伴ひ屠畜數増加し加ゆるに大正十年頃より試みられたる牛肉の内地輸出も亦年と共に増數を示すに至り自然場屋の狹隘と設備の不完全を告げ昭和四年隣接地に敷地一六、八九一・八九九平方米、建物總坪一、〇五三・〇七七平方米、工費約二〇〇、〇〇〇圓を投じ着工翌昭和五年左記現屠宰場を完成するに至れり。

屠場設備

名	稱	面	積	區	劃
牛	屠	室	三八八・〇〇	屠室、内臟取扱室、屠肉整理包裝室	
冷	藏	室	三一九・九五	機械室、準備室、冷凍室、冷藏室三、「クローラー」消毒室	
豚	屠	室	二六二・〇〇	屠室、内臟取扱室、屠肉整理室、機關室、煮沸室、消毒室	

羊	生	廊	事	牛、	馬	馬	宿	計
屠	體	務	務	羊	豚	豚	隔	
室	檢	下	所	緊	緊	緊	離	
室	査	室	所	留	留	留	所	
	室			所	所	所	舍	
	四一・二五		二二・五〇	二二・〇〇	二二・〇〇	二二・〇〇	一八三・三〇	二、〇五三・〇七
	屠室、内臟取扱室		(生體秤量器設備)				單身宿舍一、有家族宿舍五	
	二二・五〇		二二・〇〇	二二・〇〇	二二・〇〇	二二・〇〇	一八三・三〇	
	事務室、標本室、宿直室、検査室、浴室、便所、倉庫						單身宿舍一、有家族宿舍五	
	一八四・三八						一八〇・一八	
	屠室、内臟取扱室、煮沸室						大動物舎、小動物舎、牧夫室、飼料場、燒却場	
	一二九・三〇						一八三・三〇	
	屠室、内臟取扱室、煮沸室						單身宿舍一、有家族宿舍五	
	九八・九九						一八三・三〇	
	屠室、内臟取扱室、煮沸室						單身宿舍一、有家族宿舍五	
	二、〇五三・〇七						單身宿舍一、有家族宿舍五	

屠牛室には屠肉捲揚機(九臺)及屠肉運搬高架軌條の設備あり、軌道は屠室、屠肉整理室を経て冷蔵庫に連絡し之に屠肉秤量器を装置す、又各屠室内の使用水は上水道の外冷凍機運轉に使用したる水を屋上「タンク」に送貯し之を各室に配給する装置となれるを以て水量豊富にして屠場の清潔保持上極めて便多し尙各屠室共に電燈設備充分にして夜間作業を行ふを得、機關室には高壓、低壓二基の汽罐を備へ低壓は場内各室の暖房用とし高壓は各屠室及検査室の給汽給湯並消毒用に充つ、冷蔵庫は「アンモニア」壓縮直接膨脹式一(冷凍室)及鹽水循環式三(冷藏室)にして冷蔵機は米國「ヨーク」會社製「コンプレッサ」(堅型單動密閉式)二臺を備ふ、而して温度は冷凍室華氏零度、冷藏室華氏二五度乃至一〇度を規定とす、各室の面積は各四〇〇平方米にして全體にて枝肉約二〇〇頭分を收容し得べし。

屠殺能力

種類	晝間屠殺	晝夜兼行
牛	一〇〇頭	二〇〇頭
豚	一〇〇頭	二五〇頭
羊	一〇〇頭	二〇〇頭
馬	三〇頭	五〇頭

屠場従事員

日人	三名(獸醫二名、機械係員一名)
滿人	一名(小使二名、雜役五名、機械係員四名)
計	一四名

屠畜料金

滿鐵經營屠畜場に於ける屠畜料金は各地とも同一にして畜種別料左の如し。

牛	二・五〇	犢、馬、騾	一・五〇	驢	一・〇〇
綿、山羊	・四〇	豚	・八〇		
冷藏庫使用料金		一疋に付	入庫の日より五日間	金七厘	
		同	第六日より一日に付	金一厘	

2 奉天市屠宰場

奉天市に於ける屠宰場設置は光緒三十年時の東三省總督趙爾巽氏が奉天省城警察局をして大北關に新設經營せしめたるを以て嚆矢とす、設立當初本場に於ては各種獸畜の屠殺を行ひたるも屠獸及屠肉の搬出入に不便尠からざりしと牛、羊屠商は主として回教徒にして宗教的觀念より分離を切望せるを以て二年後即ち光緒三十二年工業區及小南關に各一箇所の屠宰場を増設せり、爾來南北兩場は豚、馬(馬は民國十二年十一月奉天省公署の通達に基き屠殺を禁止し現在に至る)を、西埠(工業區)は牛、羊屠殺に充て北場を第一、南場を第二、西場を第三屠獸場と稱せり。越へて民國十二年九月右三屠獸場を瀋陽市政公所に移管し翌十三年八月第三屠獸場を現位置保合堡に新築移轉す、降而民國十六年十月瀋陽縣皇姑屯に一箇所新設し之を第四屠獸場と呼び同年十二月商埠地警察局が同地屠商の組織せる興華公司をして商埠地南二經路に一箇所新設と同時に商埠局に移管せり之を商埠地屠獸場と稱す、以上五屠宰場を市及商埠局に於て經營しありしと雖も舊軍閥の搾取的壓政下に呻吟し且衛生警察制度甚だ幼稚なりしたため屠畜場の構造、設備等極めて舊式不完全にして且つ開設以來殆んど改修の行はれたることなく第一、第三商埠各屠獸場の如きは頽廢甚しく恰も單なる徵稅機關に過ぎざるの感ありたるも民國二十年九月滿洲事變勃發、翌十月二十日舊稱瀋陽市に奉天市政公署の新設を見、前記五屠獸場の經營も亦即日之が所管に屬せり。

翌大同元年滿洲建國なるや屠畜行政施設に積極的對策の講ぜらるゝに至り同年九月日人獸醫四名を配置屠畜検査を嚴行すると共に更に翌十月監察員日人四名、巡查員滿人五名を採用し密殺、密移入肉其他不良肉取締の任に當らしむる一方屠獸場設備の改修に努めたる結果稍々面目を一新するに至りたるも尙現屠獸場の設備にては食肉衛生の完璧を期する能はずとなし市政公署屠獸部に於ては目下新屠宰場の建設を計畫中なり。

現屠獸場の概要左の如し。





血料變價 二、八三二・七五  
 合計 一九八、六三二・一五  
 差引收益 五〇、二〇二・七二  
 屠宰捐目、手数料及金額 一四八、四二九・四三

種類	捐目	屠宰捐	附加捐	屠畜検査料	牛下水衛生捐	鬃毛報効金	血料衛生捐	計
豚		〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇		〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇
羊		〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇		〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇
牛		〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇
計		〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇

備考 一、鬃毛報効金は康徳二年七月一日より廢止

五、精肉

附屬地滿鐵屠畜場に於て屠殺さるゝ牛、豚は屠殺前二、三ヶ月間の肥育をなせるもの比較的多く従て肉質も中、上等に屬するもの多きも奉天市屠宰場に於けるものは一般に肉質中等以下なり、屠肉歩止は滿洲牛四五%、蒙古牛四七・五%、肥育牛五三%程度にして綿、山羊三七・三八%、豚五五・六〇なり。

滿鐵屠畜場に於ける屠商(屠殺を依頼し精肉を自店に持歸り卸賣若し小賣をなす者)は卸賣をなすもの少く主として小賣業者なり、奉天市屠宰場に就て見るに牛、羊屠商は初夏に於て最も少く三〇戸内外に過ぎざるも漸次増加し冬季に至れば實に一三〇戸に達し市内約二五〇と算せらるゝ小賣業者の手を経て回教徒並に二〇〇餘の清真菜館(回教飲食店)を主客とし一部は一般市民に依り消費され本肉商は殆んど回教徒なり、豚屠商は約六〇戸あり屠豚の大半は毎朝小東關肉市場に於て市内四〇〇戸の飲食店並に一〇〇軒に近き小賣業者に卸賣し他の一部は屠商自家小賣及飲食店へ直接配給せらるゝものとす。

奉天に於ける精肉販賣價格は滿鐵附屬地内日人向及市内滿人向とにより大差あり。  
 附屬地内日人向

區分	公設市場内	市場外
牛肉、内ロース	一〇〇匁に付 〇・六〇	〇・五八
外ロース	同 〇・四六	〇・四四
ラム	同 〇・四〇	—
一等肉	同 〇・三四	〇・三四
二等肉	同 〇・三〇	〇・三〇
三等肉	同 〇・二八	〇・二八
並肉	同 〇・二四	〇・二四
豚肉	同 〇・五〇	〇・四四
附屬地内滿人向及滿洲國側		
牛 肉	卸賣骨付一斤に付 國幣 〇・二五	小賣 〇・三〇
馬 肉	一斤に付 〇・一五	

食店)を主客とし一部は一般市民に依り消費され本肉商は殆んど回教徒なり、豚屠商は約六〇戸あり屠豚の大半は毎朝小東關肉市場に於て市内四〇〇戸の飲食店並に一〇〇軒に近き小賣業者に卸賣し他の一部は屠商自家小賣及飲食店へ直接配給せらるゝものとす。

羊 肉 卸賣骨付一斤に付 國幣 〃三二 小 賣 〃四〇  
 豚 肉 同 〃二八 小 賣 〃三五

六、精肉販賣業者

附屬地内

當地に於ける精肉販賣業者の主なるもの左の如し。

牛、羊 肉 奉天住吉町五番地 王 如 蘭  
 同 霞町一番地 馮 海 廷  
 (輸 出) 同 琴平町一五番地 東亞勸業株式會社  
 馬 肉 同 橋立町一七番地 山 崎 千 代  
 豚 肉 同 彌生町六番地 賈 壽 山  
 同 住吉町五番地 王 如 蘭  
 同 橋立町五番地 賈 松 南

滿洲國側

牛、羊 肉 奉天電車廠東門牌一二號 馮 永 慶  
 同 清真學校向門牌六〇號 楊 永 德  
 同 教軍場胡同門牌三一號 楊 隆 成  
 同 回々營分所門牌一九號 孫 萬 富

豚 肉

同 小東關小津橋門牌一〇四號 劉 岐 山  
 同 什字街門牌二四四號 劉 岫 巖  
 同 小北關天后宮門牌四號 宋 會 川

(一) 鐵 嶺

一、肉用家畜の需要及出廻頭數

當地附屬地内東亞勸業株式會社經營屠畜場及滿洲國側屠畜場に於ける最近五年間の畜種別屠殺頭數左の如し。  
 附屬地内東亞勸業屠畜場

年 度	畜 種 別	牛	犢	馬	騾	驢	綿、山羊	豚	計
昭和六年度		二二六	三九	四	七	二六	四三	三〇	三〇六
同 七年度		一七三	三三	四	七	二八	一〇	九八	三〇三
同 八年度		三〇六	四八	六	六	二六	一九	三三	四三〇
同 九年度		三三三	五三	五	三	二六	二六	三三	四三三
同 十年度		三三三	一	三	三	二五	三	三五	四三三
		三三三		三	三	二五	三	三五	四三三

右屠殺牛中仕向地別輸出頭數左の如し。

年度	仕向地	品大	連奉	天佐	世保	京	都	計
		1,855	572					1,283
		618	1,032					1,650
		355	2,197	423				3,075
		250	2,523		126			2,649

滿洲國側屠宰場

年度	畜種別	牛	綿、山羊	豚	計
		1,112	596	5,311	6,919
		1,158	523	5,511	7,192
		433	1,101	3,562	5,096
		1,001	562	5,208	6,771

右兩屠宰場屠殺數及生畜商其他に就き調査せし結果當地に出廻る肉用家畜の頭數は一箇年牛四、〇〇〇頭乃至四、五〇〇頭、馬、騾、驢五〇〇頭乃至七〇〇頭、綿、山羊五〇〇頭内外、豚五、〇〇〇頭乃至七、〇〇〇頭と意料せらる。

二、肉用家畜の種類地並出廻の経路

當地に出廻る牛は附近各縣產の滿洲牛及通遼、洮南、鄭家屯、法庫の各市場より買出さるゝ蒙古牛にして其比率は

滿洲牛三〇%、蒙古牛七〇%の割合なり、其他畜種は何れも附近各縣產の滿洲種にして豚は當地に滿鐵種豚場の設置せられある關係上「パークシャー」雜種の屠殺さるゝもの六〇%に達す。

三、肉用家畜の取引狀況及相場

當地の回教徒牛商人其他生畜商は何れも前記原產地及生産地市場に出掛け買付の上汽車輸送若は陸送により當場に牽付らる。

取引相場

牛、目算肉量一〇〇匁に付

五〇貫もの

・一三五

六〇貫もの

・一四五

七〇貫もの

・一六

馬、羊 奉天に大差なし

豚、目算肉量一斤に付

・二二

四、肉用家畜の屠肉品質及屠肉歩止

當地に於て屠殺さるゝ牛、馬、綿、山羊の肉質は中等にして上等に屬するもの少きも豚は肉用家畜の種類欄に述べたる如く「パークシャー」雜種多く屠殺せられ從て肉質も良好なるもの多し、屠肉歩止は前記各地の項に於けるものと同じく滿洲牛四四―四五%、蒙古牛四八%内外、綿、山羊三六―三七%、豚五五―六〇%なり。

五、屠畜税其他屠殺に要する各種經費

當地附屬地内屠畜場は東亞勸業株式會社の經營にして關東局の監督下にあり、屠殺料金左の如し。

牛 二・五〇<sup>四</sup> 犛 一・〇〇 馬、騾 二・五〇<sup>四</sup>  
 驢 〇・八〇 綿、山羊 〇・六〇 豚 〇・八〇

滿洲國側屠宰場屠宰捐左の如し。

牛 三・〇〇 綿、山羊 一・〇〇 豚 一・一〇

六、精肉小賣相場

附屬地内 牛 肉 内ロース 一〇〇匁に付 〇・三六<sup>四</sup>  
 外ロース 同 〇・三二  
 上肉 同 〇・二八  
 並肉 同 〇・二四

馬 肉 一斤に付 國幣 〇・二〇  
 豚 肉 一〇〇匁に付 〇・三〇

滿洲國側

牛 肉 一斤に付 國幣 〇・二四

羊 肉 同 〇・二五

豚 肉 同 〇・二四

七、精肉小賣業者

當地に於ける精肉小賣業者の主なるもの左の如し。

附屬地内

牛、豚 肉 鐵嶺松島町二ノ四

馬 肉 同 鐵道西

滿洲國側 同 中央通

牛、羊 肉 鐵嶺城内廣裕街

同 野菜市場

豚 肉 同

福本作次郎 田中平吉 村田源一郎 周義 唐玉 王喜

(三) 四平街

一、肉用家畜の需要及出廻頭數

當附屬地内屠宰場に於ける最近四年間の畜種別屠殺頭數左表の如し。

年 度	畜 種 別		牛	馬	騾	驢	綿	羊	山	羊	豚	計
	昭 和 七 年 度	同 八 年 度										
昭 和 七 年 度	三、九	四、〇	一、七	一、六	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	七、二
同 八 年 度	三、八	三、九	一、六	一、六	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	七、一

昭和九年度	四三	四	三	一	二	三	二七二	三三三
同 十年 度	五四	一	一	一	二	一	二七二	四〇五

110

滿洲國側屠宰場に於ける康德元年一箇年の屠殺數左の如し。

牛 五〇〇頭 馬、驢、驘 一〇〇頭 綿、山羊 二〇〇頭  
 豚 六、五〇〇頭 計 七、三〇〇頭

右屠殺數其他調査により當地に出廻る肉用家畜の頭數は一箇年牛一、〇〇〇頭、馬、驢、驘二〇〇頭、綿、山羊三〇〇頭、豚九、五〇〇頭なり。

二、肉用家畜の種類、産地並出廻の経路及其取引狀況は鐵嶺に同じ。

三、肉用家畜の取引相場

牛 日算肉量一斤に付 國幣 二四一・二七  
 馬、羊 奉天、鐵嶺に大差なし  
 豚 生體重一斤に付 一八一・二〇

四、肉用家畜の屠肉品質及屠肉歩止

當地に於て屠殺さるゝ肉用家畜の屠肉品質は何れも中等以下にして屠肉歩止は前述各地に大差なし。

五、屠畜税其他屠殺に要する各種經費

附屬地内屠畜場は個人經營にして關東局の監督下にあり屠殺料金左の如し。

牛 六・〇〇 馬、驢 四・〇〇 驢 三・〇〇  
 綿、山羊 一・一〇 豚 二・八〇  
 滿洲國側屠宰場屠宰捐左の如し。  
 牛、馬、驢 五・八〇 驢 四・〇〇 綿、山羊 一・一〇  
 豚 二・六〇

六、精肉小賣相場

附屬地内  
 牛 肉 内ロース 一〇〇匁に付 三・三〇  
 外ロース 同 二・八  
 上 肉 同 二・六  
 並 内 滿人向一斤に付 國幣 二・六  
 豚 肉 一〇〇匁に付 國幣 四・〇  
 滿人向骨付一斤に付 國幣 三・〇

滿洲國側

牛 肉 一斤に付 國幣 二・五  
 豚 肉 同 同 二・五  
 七、精肉小賣業者

當附屬地内に於ける精肉小賣業者の主なるもの左の如し。

牛、羊	肉	四平街紅梅町四五番地	白	藤	大	韓	王	陸	陸
		同 南四條通五番地	蓆	山	和	曉	樹	宗	占
		同 南四條通八番地	友	友	商	齋	齋	發	甲
		同 中央通一八番地							
		同 北町一五番地							
		同 北四條通							
		同 北町一七番地							
豚	肉								

(111) 新京

一、肉用家畜の需要及出廻頭數

新京は建國以來著しき發展を遂げ現に人口二〇餘萬を算する大都市として市内に於ける肉の消費量も甚だ多く今最近六年間に於ける畜種別屠殺頭數を表示せば左の如し。

附屬地内滿鐵屠畜場

年 度	畜 種 別	牛	猪	馬	騾	驢	綿、山 羊	豚	計
昭和五年度		11,713	78	1	1	8	9,876	11,125	14,720

同 六年度		11,151	113	5	21	3	8,226	10,123	14,110
同 七年度		11,821	5	10	14	1	5,625	15,925	17,226
同 八年度		11,118	10	10	22	1	6,290	14,101	16,914
同 九年度		11,833	121	200	20	9	5,321	17,118	17,622
同 十年度		11,622	1	157	157	6	6,226	17,824	19,725

滿洲國側屠畜場

年 度	畜 種 別	牛	馬	騾	驢	綿、山 羊	豚	計
康 德 元 年		6,822	1	1	1	1,522	2,718	11,064
同 二 年		7,102	1	1	1	2,226	2,521	12,872

滿洲國側屠畜場に於ける屠殺頭數は市公署接收以前各個人經營を以て牛屠畜場、豚屠畜場、馬、騾、驢鍋房として屠殺せられ居り精密なる記録なきを以て適確なる數を知り得ざるも接收後の現屠畜場、生畜商及肉商並屠場従事員等に就き調査せる結果を綜合せば當地に出廻る肉用家畜の頭數は一箇年牛一一、五〇〇頭乃至一一、五〇〇頭、馬、騾、驢二、三〇〇頭乃至二、八〇〇頭、綿、山羊二、八〇〇乃至三、〇〇〇頭、豚三七、〇〇〇頭乃至四二、〇〇〇頭と思考す、尙昭和六、七年に於ては生牛、枝肉、正肉として一箇年三、〇〇〇頭乃至四、〇〇〇頭を大連、旅順及日本に仕向けられ亦一方肥育牛の哈爾濱に移出せらるゝもの年七〇〇頭餘、計三、七〇〇頭乃至四、七〇〇頭の移出牛ありたるも昭和八年四月以降現地(當地)需要の増大と後述原産地に於ける資源薄の爲之に伴ふ集散の増量なく且銀高等の關係にて

南送移出量激減せし結果大連、旅順に於ては市内消費及日本向としては専ら青島より山東牛の輸入を見つゝあり、從て最近一箇年の南方への移出牛は五〇〇頭内外にして前述肥育牛の哈爾濱移出と共に年計約一、五〇〇頭なるべし。

二、肉用家畜の種類、産地並出廻の経路

牛、新京に出廻る牛は大別して滿洲牛及蒙古牛となす、蒙古牛は出廻牛中の七〇%を占め洮南近傍の各縣及東部内蒙古産にして洮南より買出されたりたるものを主とし之に次ぎ海拉爾、通遼、遼源各市場に出廻り來りたる同地方産並に新京に近き農安縣、長嶺縣産のものにして仲秋節以前は主に農安縣、長嶺縣其以後春三、四月頃迄は洮南、通遼海拉爾方より出廻るもの多し、農安縣、長嶺縣より出廻る牛は主として同地方民の趕送により當市場に來りたるものを當地牛商人の購入するもの多く、買出に至り購入するもの少し。  
洮南、通遼、海拉爾地方には當地牛商人買出に至り趕送し來るもの或は亦原產地市場牛商人の當地同業者に依託販賣をなすものあり。

滿洲牛は滿洲事變前後(民國二十年、大同元年の頃)迄は當地出廻牛中の六〇%を占め居たりしも事變當時匪賊團の奪掠、徵發甚しく最近に於ては資源薄となり出廻牛の三〇%に過ぎざる狀況なり、産地は長春、伊通、雙陽、永吉、盤石、懷徳の各縣産の農耕牛にして當地牛商人の買出により市場に來るもの多く稀に原產地農民の趕出し來るものあり。

馬、騾、驢、馬は蒙古馬にして内外蒙古一帯に産するものなり、新京に出廻る馬の六〇%は農安縣産のものにして他は呼倫貝爾産のもの海拉爾市場より當地馬市場に來り、騾は主産地たる農安、懷徳、朱樹の各縣を近く控へ之等の地方より當市場に出廻り、驢は長春、伊通、雙陽各縣産のものなり。

綿、山羊、主に新京附近各縣産のもの當地回教徒牛商人の手を経て市場に出廻るものにして出廻總頭數二、八〇〇頭乃至三、〇〇〇頭中二、五〇〇頭乃至二、八〇〇頭は綿羊なるを以て山羊は二〇〇頭乃至三〇〇頭に過ぎず。

豚、主として長春、伊通、雙陽各縣産の滿洲在來種にして數年前滿鐵にて「パークシャー」種により在來種の改良を圖る目的を以て種豚場を各地に設置せし結果最近之が雜種を僅に發見するに至れり附近農民の趕出し來りたるもの及少數は滿鐵本線開原以北の沿線より汽車輸送にて當市場に出廻るものあり之等は一旦當地豚商人の手により二、三箇月間肥育の後屠殺するものなり。

三、肉用家畜の取引狀況及相場

新京には生牛の賣買、移出入、肥育を業とする回教徒牛商人甚だ多く主として城内西三道街附近に居住し前項原產地及同市場に至り買付す、馬、豚も生畜商の原產地買出及農民の趕出により當市場に出廻るものなり。

取引相場

牛	目算肉量一斤に付	國幣	草牛	●二五	喂牛	●二七
馬	同	同		●一二		
羊	同	同		●二六	●二七	
豚	生體重一斤に付	同		●二一	●一四	

四、肉用家畜の屠肉品質及屠肉歩止

牛、當地に出廻る牛は前述の如く原産地に於て放牧を主として飼育せられたる所謂草牛にして肉質中等なるもの多きも當地は牛の肥育盛にして毎年二、〇〇〇頭以上肥育せられ哈爾濱移出を除く大部は附屬地滿鐵屠畜場に於て屠殺

され居るを以て之等肥育牛は肉質上等のもの多し、屠肉歩止は平均草牛四五%、喂牛五四%程度なり。  
 馬、騾、驢、綿、山羊、何れも肉質中等以下にして屠肉歩止は馬三〇%、綿、山羊三五―三七%なり。  
 豚、滿洲在來種多く肉質中等に屬するも最近僅に屠殺せらるゝ「パークシャー」羅種並在來種中の肥育豚は比較的良  
 好なるものあり、屠肉歩止は「パークシャー」羅種五五―五八%、滿洲在來種四八%程度なり。  
 附屬地内滿鐵屠畜場に於ける昭和五年度以降の屠肉量及卸肉價格並に各屠畜一頭枝肉量を表示せば左の如し。

屠肉量及卸肉價格

種別	年	昭和五年度		昭和六年度		昭和七年度		昭和八年度	
		屠肉量	卸肉價格	屠肉量	卸肉價格	屠肉量	卸肉價格	屠肉量	卸肉價格
牛	屠肉	1,077,341	@ 2.65	1,113,141	@ 2.60	1,113,141	@ 2.55	1,077,341	@ 2.50
	卸肉	1,077,341	@ 2.65	1,113,141	@ 2.60	1,113,141	@ 2.55	1,077,341	@ 2.50
馬	屠肉	5,000,000	@ 0.50	4,500,000	@ 0.50	4,500,000	@ 0.50	4,500,000	@ 0.50
	卸肉	5,000,000	@ 0.50	4,500,000	@ 0.50	4,500,000	@ 0.50	4,500,000	@ 0.50
羊	屠肉	1,000,000	@ 1.50	1,000,000	@ 1.50	1,000,000	@ 1.50	1,000,000	@ 1.50
	卸肉	1,000,000	@ 1.50	1,000,000	@ 1.50	1,000,000	@ 1.50	1,000,000	@ 1.50
豚	屠肉	1,000,000	@ 1.00	1,000,000	@ 1.00	1,000,000	@ 1.00	1,000,000	@ 1.00
	卸肉	1,000,000	@ 1.00	1,000,000	@ 1.00	1,000,000	@ 1.00	1,000,000	@ 1.00
計	屠肉	8,077,341		8,123,141		8,123,141		8,077,341	
計	卸肉	8,077,341		8,123,141		8,123,141		8,077,341	

各屠畜一頭枝肉量

年	種別	屠肉量	卸肉價格
昭和五年度	牛	4,570,000	17,400
同六年度	牛	4,800,000	17,000
同七年度	牛	5,500,000	16,000
同八年度	牛	6,000,000	17,000
昭和五年度	馬	3,000,000	1,500
同六年度	馬	2,800,000	1,400
同七年度	馬	2,500,000	1,250
同八年度	馬	2,400,000	1,200
昭和五年度	綿、山羊	4,300,000	2,150
同六年度	綿、山羊	4,000,000	2,000
同七年度	綿、山羊	4,500,000	2,250
同八年度	綿、山羊	5,000,000	2,500
昭和五年度	豚	1,700,000	850
同六年度	豚	1,700,000	850
同七年度	豚	1,600,000	800
同八年度	豚	1,700,000	850

五、屠畜稅其他屠殺に要する各種經費

附屬地内滿鐵屠畜場は従前各地に同じ。  
 滿洲國側屠宰場各捐左表の如し。

地方	國稅	捐目	牛		馬、騾		綿、山羊		豚	
			賣買稅	吊頭稅	賣買稅	吊頭稅	賣買稅	吊頭稅	賣買稅	吊頭稅
地方	國稅	捐目	從價の 5.25/100	從價の 1.81	從價の 5.25/100	從價の 1.81	從價の 5.25/100	從價の 1.81	從價の 5.25/100	從價の 1.81
屠畜検査料			從價の 4/100	從價の 1.30	從價の 4/100	從價の 1.80	從價の 4/100	從價の 1.00	從價の 4/100	從價の 1.50

六、精肉小賣相場

附屬地内



牛	肉	ロース	一〇〇匁に付	●三二
		ラム	同	●三〇
		上肉	同	●二八
		並肉	同	●二二
		肪脂	一〇〇斤に付國幣	一五〇〇—一六〇〇
馬	肉	一斤に付	國幣	●一七
羊	肉	同	同	●三六
豚	肉	一〇〇匁に付	同	●三〇

滿洲國側

牛	肉	一斤に付	國幣	●二二	喂牛	●三〇
馬	肉	同	同	●二〇		
羊	肉	同	同	●三〇		
豚	肉	同	同	●二四—●二八		

七、精肉小賣業者

當地に於ける精肉小賣業者數左の如し。

附屬地内

牛、羊	肉	商	一三	馬	肉	商	三	豚	肉	商	二四
滿洲國側											
牛、羊	肉	商	四〇	馬	肉	商	三五	豚	肉	商	四三

第三章 肉牛肥育事情

滿洲國內に於て屠殺消費さるゝ肉牛の大部を占むる滿洲牛及蒙古牛の原産地方に於ける飼養状況を見るに滿洲牛は國內東部及南部の山岳地帯の農家が農耕勞役に使役する目的を以て育成するものにして其飼養方法は主として年中放牧によるものなるも放牧原野廣大ならざる關係上野草の繁茂する夏期を除く時期に於ては放牧のみにより飼養すること困難なるを以て農家は穀類收穫によつて得る包米稈、豆文子若くは谷草等を與へて放牧による飼料不足を補ふを普通とす。尙農耕其他の勞役時に限り大豆、大豆粕等の濃厚飼料を粗飼料に混して給與す。蒙古牛は蒙古に於て蒙古人の生産、育成するものにして其飼養方法は遊牧地方、混牧地方等により多少趣を異にするも何れの地方に於ても牛を周年山野に放牧飼養することは同一にして混牧地方に於て農耕に使役の際少量の大豆、粟冬季降雪の際少量の乾草、粟稈類を補給する外蒙古人が特に其飼養牛に對し飼料を給することなし。

斯の如く滿洲牛、蒙古牛共に年中山野に放牧され殆んど野生的に生育し飼養管理上特に注意の拂はること少し、從て夏期山野に青草繁茂する時期には飼料足りて牛體肥滿するも秋冷の候野草枯渇すると共に漸次瘠瘦し特に晩冬初春に至り酷烈の寒氣と飼料缺乏による饑餓の爲斃死をも見ることあり、斯の如く國內各消費地市場に於ける出廻肉牛は總て粗放なる飼養管理によるものなるを以て何れも肉附不良にして直に是を屠殺するも肉質良好なるもの少し。

又一方肉牛の原産地方より各市場に出廻る時期を見るに蒙古牛は普通八月下旬より翌年一、二月頃迄に最も多く滿洲牛も亦飼養農家は收穫終了後の秋冬に於て肉牛として賣却するもの多し。

然るに各消費地市場に於ける牛肉の需要は前記肉牛の出廻時期とは關係なく盛夏の候減少するも一箇年を通じ大な

る變化なきを以て一定の時期に出廻りたるものを或期間市場に於て繋留する必要を生ず。  
斯く原産地よりの出廻牛は肉質良好ならざると其出廻時期の關係により或期間市場に繋留の必要上各地市場に於て肉牛の肥育を行ふものとす。

國內に於て牛、羊若くは其肉の賣買に従事するは主として回教徒にして各地方回教徒の大部は之により生活し従て各地市場に於て牛の肥育を行ふは大部分回教徒の牛商、肉商等にして稀に回教徒以外のものにより肥育の行はる場合と雖も之に使用されて實際肥育の飼養管理に當るものは回教徒なり。而して是等回教徒の肉牛肥育法は其飼料及飼養管理法等各地殆んど同一にして在來肉牛肥育法とも稱さるべきものなり。

亦稀に回教徒の外糧棧、燒鍋、油房等に於て役に供しつゝ自家生産の飼料を以て長期間に亘り牛を肥育するものあるも回教徒の專業的肥育に比し其頭數甚だ少し。

### 一、肥育素牛の選定

肥育素牛の選定には第一體軀の大なるを條件とす。即ち肥育により増加する肉、脂肪の量は體軀大なるもの程多く且飼料の所要量は必ずしも牛體の大小に比例せず體軀小なる牛は肥育による肉、脂肪の増加量僅少なる割合に多量の飼料を要す、従て肥育牛は殆んど體軀大なる鬮牛にして牝牛は滿洲牛、蒙古牛共に矮小なるを以て肥育に用ゆることなく牝牛は其數少く肥育に供すること稀なり。

又一般に蒙古牛は滿洲牛に比し體軀大なるを以て滿洲牛より遙に多數肥育に供せられ居れり。各地方に於て肥育さるゝ蒙古牛は普通生體重一〇〇貫以上、屠肉量を以て牛の大小を決定する滿人の習慣によれば肉量少くとも二五〇斤以上にして是以下の牛は肥育されることなし。

肥育牛の年齢は完全に成熟せる五六歳以上のものにして滿洲牛、蒙古牛共に甚だしく晩熟の爲四歳以下のものは體軀小なるを以て肉牛としての價値乏しく之を肥育するも好結果を得難し。又老齡のものは一般に肥育に適せずとなすも回教徒間に於ては門齒の脱落せざる限り十歳内外の老牛も肥育に供す。要するに肥育に適する年齢は五、六歳以上の成熟牛にして齒の完全なるものは相當の老齡牛も差支なき如し。

### 二、肥育の適期及期間

一般に肥育の行はれる時期は秋十月、十一月の頃より翌春三、四月に至る間に於て夏は氣候上肥育に適せざるは勿論原野に青草繁茂し家畜は放牧のみにより充分肥滿するを以て特に給飼肥育の要なし。又前述せし如く出廻最盛期たる秋冬より或期間消費地市場に於て繋留の要ある關係上此の時期に肥育を行ふものとす。

肥育の期間は九〇日乃至一〇〇日を標準とするも肉牛の相場は毎年秋の出廻時期より舊正前迄の間最も廉く舊正後漸次騰貴し春四、五月に至り最も高價を告ぐる例なるを以て肥育も單に肉及脂肪の増加を目的とするのみならず賣却時期による相場の値上りをも考慮の上行はれ普通十一月、十二月より開始し翌年四、五月迄の間に於て適當の需要者あり相當の利益を得るに於ては肥育中隨時賣却若くは屠殺し、或は又肉牛相場最も高價なる五、六月迄肥育を繼續し賣却する場合あり。

### 三、飼養管理狀況

肥育飼料として在來肥育法に用ひらるゝものは各地方共酒糟(高粱酒糟)及谷草(粟稈)を主とし稀に少量の大豆、大豆粕若くは香油糟(胡麻油糟)を加へ或は谷草に代へ羊草(鹹草)を用ゆる場合あるも前記酒糟谷草の二飼料及少量の食鹽のみにより飼養さるゝ場合最も多し。

粟は高粱、大豆と共に國內に廣く栽培せらるゝ作物にして粟稈は何れの地方に於ても容易に得らると雖も馬、騾、驢の粗芻として重用せられ其販路極めて廣く肥育飼料として價格稍高きに失する嫌あり、羊草は蒙古地方に廣く生育する野草にして草丈五〇糎乃至一〇〇糎春期萌芽早く秋期の枯凋遅し其乾草となせるものは家畜飼料として蒙古野草中最良のものなり且價格廉く原産地市場の如き羊草を得るに可能なる地方に於ける肥育飼料として好適のものと思ふ。

酒糟は高粱酒製造の際に得らる蒸溜殘滓にして無窒素物の外相當多量の蛋白質及脂肪を含有し牛、豚の肥育飼料として缺らべからざる飼料なるも燒鍋(高粱酒釀造業)に於ける副産物なるを以て燒鍋所在地以外に於ては容易に之を入手し得ず。又飼料としての需要増加するも其生産の増量を望み得ない性質のものにして近來牛の肥育飼料として用ひらるゝ外豚の飼料として需要多く從て價格必ずしも廉ならず。

大豆及香油糟は共に肥鹽を促進し且酒糟による肥育牛の屠殺時に於ける脂肪の黄色化を防止する目的を以て酒糟及谷草に加へ用ひらる。

今滿鐵公主嶺農事試驗場に於て昭和四年より同九年に亘る六年間の成績を蒐録せる滿洲產飼料分析及消化試驗による肥育飼料粗成分を示せば左の如し。

肥育飼料粗成分 (100分中)

飼料	粗成分	水	分粗	蛋白質	粗脂肪	可溶性無窒素物	粗纖維	粗灰分
酒糟	六三.八	九.七	三.九	一七.八	二.九	三.九	三.九	三.七

谷	大豆	草
一三.〇〇	一三.五〇	一三.五〇
三.六	三.九	九.七
一.三	一.八	一.六
一.三	一.七	一.八
三.二	三.一	三.九
八.六	四.三	七.五

飼養法は先づ牛を肥育飼料の採食に馴れしむる要あり肥育開始時に於ては多量の谷草に極少量の酒糟を混じ漸次酒糟の給與量を増加す。素牛は當初酒糟のみを給せば採食せざるも谷草中に混じ給與するときは自然に其香味に馴れ肥育中期に至つては甚しく嗜好するに至る。

肥育當初の酒糟給與量及其後の増加量はもとより一定せず飼養者により多少異なるも大體に於て最高給與日量四〇斤乃至五〇斤にして肥育三〇日乃至五〇日を以て最高給與量に達せしむるを普通とす。日々の増加量は初期極めて徐々になし酒糟を嗜好するに至りたる時は稍急激に増加するものとす。

肥育飼料及給與日量に關し洮南、遼源、奉天に於ける調査例を擧れば次の如し。

調査地	飼料名	期分	一期(10)		二期(10)		價格日計	期間合計
			數	價	數	價		
洮南天和街	酒糟	大	三斤	三.〇	三斤	三.〇	同上	同上
			三斤	三.〇	三斤	三.〇	同上	同上
德盛祥院內	大豆	草食	一週一回一頭(2)	同上	同上	同上	同上	同上
			同上	同上	同上	同上	同上	同上
鐵嶺田中商店	鹽	田中	同上	同上	同上	同上	同上	同上
			同上	同上	同上	同上	同上	同上
吉	平	計	同上	同上	同上	同上	同上	同上
			同上	同上	同上	同上	同上	同上



調查地	肥育者氏名	張	宏	量	飼料名		期區分	價數	
					酒	槽		格	量
奉天小西關教軍場胡同					酒	槽	二期(七)	價	數
					香	油		格	量
					油	槽	一期(七)	價	數
					谷	草		格	量
					食	鹽	二期(七)	價	數
					價格日計	期間合計		格	量
					同	同		同	同
					上	上		上	上
					六元二	二元		二元	二元
					二元七	二元七		二元七	二元七

一二七

調查地	肥育者氏名	張	宏	量	飼料名		期區分	價數	
					酒	槽		格	量
奉天小西關教軍場胡同					酒	槽 <td rowspan="2">二期(七)</td> <td>價</td> <td>數</td>	二期(七)	價	數
					香	油		格	量
					油	槽	三期(七)	價	數
					谷	草		格	量
					食	鹽	四期(三〇)	價	數
					價格日計	期間合計		格	量
					同	同		同	同
					上	上		上	上
					六元二	二元		二元	二元
					二元七	二元七		二元七	二元七

調查地	肥育者氏名	張	宏	量	飼料名		期區分	價數	
					酒	槽		格	量
奉天小西關教軍場胡同					酒	槽 <td rowspan="2">二期(七)</td> <td>價</td> <td>數</td>	二期(七)	價	數
					香	油		格	量
					油	槽	三期(七)	價	數
					谷	草		格	量
					食	鹽	四期(三〇)	價	數
					價格日計	期間合計		格	量
					同	同		同	同
					上	上		上	上
					六元二	二元		二元	二元
					二元七	二元七		二元七	二元七

調查地	肥育者氏名	張	宏	量	飼料名		期區分	價數	
					酒	槽		格	量
奉天小西關教軍場胡同					酒	槽 <td rowspan="2">二期(七)</td> <td>價</td> <td>數</td>	二期(七)	價	數
					香	油		格	量
					油	槽	三期(七)	價	數
					谷	草		格	量
					食	鹽	四期(三〇)	價	數
					價格日計	期間合計		格	量
					同	同		同	同
					上	上		上	上
					六元二	二元		二元	二元
					二元七	二元七		二元七	二元七

一二六



斷し其觀察は概ね正鵠なるもの多し。肥育業者の言によれば三箇月間の肥育を行ふ場合肉及脂肪の増加量最初の一箇月間は甚だ少く一日平均〇・五斤を超へず、次の一箇月は平均一日一斤乃至一・五斤最後の二箇月は一日平均二斤乃至三斤を増加し合計一〇〇斤乃至一二〇斤とし長期肥育の場合に於ては四箇月にて一三〇斤乃至一五〇斤五箇月にて一六〇斤乃至一八〇斤六箇月にて一八〇斤乃至二〇〇斤の肉量増加を來すと云はる。

肥育に關する收支を見るに肉牛の肥育は單に肉及脂肪の増加による利益の外肉質改善及賣却時期の關係により相場騰貴を目的として行はれ從來相當有利なる採算を見たるも前述せし如く肥育主肉料たる酒糟、谷草の需要増加に伴ふ購入價格の高騰により本年に於ては肥育牛賣却時に於ける周到なる立牛相場を考慮せざれば收支相償ざるの狀態となれり今調査各地に於ける肥育收支を表示せば左の如し。

備考	肥育者	支			出			收					
		肥育頭數	素牛肉量	平均一斤の價格	買入價格	飼料費	金利	人夫賃	計	肥牛平均一斤の價格	賣却價格	損益	合計
田中	肥育者	30頭	300斤	2.50	750.00	600.00	150.00	20.00	1000.00	2.50	750.00	250.00	1000.00
裕洸	肥育者	100頭	250斤	2.60	650.00	400.00	250.00	100.00	1400.00	2.60	260.00	1140.00	260.00
備考	肥育者	30頭	300斤	2.50	750.00	600.00	150.00	20.00	1000.00	2.50	750.00	250.00	1000.00

備考	肥育者	支			出			收					
		肥育頭數	素牛肉量	平均一斤の價格	買入價格	飼料費	金利	人夫賃	計	肥牛平均一斤の價格	賣却價格	損益	合計
楊鄭	肥育者	50頭	250斤	2.60	1300.00	800.00	500.00	100.00	1900.00	2.60	1300.00	600.00	1900.00
健	肥育者	50頭	250斤	2.60	1300.00	800.00	500.00	100.00	1900.00	2.60	1300.00	600.00	1900.00
積奉	肥育者	50頭	250斤	2.60	1300.00	800.00	500.00	100.00	1900.00	2.60	1300.00	600.00	1900.00
備考	肥育者	50頭	250斤	2.60	1300.00	800.00	500.00	100.00	1900.00	2.60	1300.00	600.00	1900.00

右の如く何れの肥育者に於ても一頭に付二、四一圓乃至一、五〇圓の利益となれり。肥育牛の賣却は其地に於ける最高相場によりたるものなるも實際に於ては然らざる場合あるを以て實収入額は幾分減少するも支出に於ける飼料は

肥育當初酒糟の給與量僅少なるに拘らず第一期の半以降日量により計算せるを以て此點實際量は少く從て支出額減少することとなり結局收支同様となり本表による一頭利潤は略正當なるものゝ如し。

肉牛の肥育は南滿洲鐵道沿線の各都市に於て行はれ就中奉天、新京を最も多しとするも肥育の主飼料たる酒糟及谷草の高價なると原產地資源簿の結果肥育頭數漸減の状態なり。元來牛の肥育は原產地に於て行はるを至當とするも滿洲牛、蒙古牛共原產地生産者の智識及生活程度の關係並農業經營法が集約なる經濟事業を行ふに至らざると市場への交通不全による飼料の購入及牛の牽付等に多大の不便あるを以て國內に於ける肥育は總て各市場に於て行はる又一面肥育は殆んど都市に居住する回教徒の專業なると在來肥育法に於ける肥育飼料が都市若くは其附近に於てのみ得らるゝ酒糟を主とするによるを以て生産者に肥育牛の有利なるを知らしむると共に酒糟、谷草に比し經濟的にして且何處にても容易に得らるゝ肥育飼料を豊富なる滿洲農産物中に求め是により肥育を行ふ時は原產地同市場若くは消費地市場の何れに於ても多數の肥育を行ひ得べく滿蒙牛の肉牛としての價値を向上せしめ國內人口の増加及住民の經濟力充實に伴ふ食肉需要の増大延いては本邦及日本の牛肉需給増加の趨勢にも應じ得べし。

## 獸骨に關する調査

### 一、獸骨利用の沿革

獸骨は往時獸類屠殺業者の邪魔物として取扱れ其の一小部分が骨細工品の原料として使用さるゝ以外は全くの廢棄物なりしも近代科學の發達に伴ひ之が肥料的價値を認められ骨粉工業の興るに及び續々として市場に搬出せられ其製品は廣く農家の賞用する所となれり。

獸骨中には燐酸、窒素の二大肥料成分を含有し殊に他肥料に比し價格低廉にして使用法も亦簡便なるを以て其需要は年々増加の趨勢を示すに至れり。

滿洲に於て集散する獸骨は殆ど牛骨にして馬、驢、驘、羊、豚等は其數甚だ少量なり、而して其收集の歴史は極めて最近にして日露戰爭以前にありては前述の如く廢棄物として取扱れ僅に牛肢骨の一部を以て婦人裝飾品の原料となすに過ぎりしも戰後日人の來往頻繁となるに及び獸骨粉が水田開發上好個の肥料たることを認められ遂に獸骨及骨粉が日本其他へ輸出せらるゝの氣運を醸成するに至りしものなり。

### 二、南滿に於ける地方別取扱數量及出廻の概況

南滿を大連、奉天、安東、新京の四主要市場に大別し獸骨集散系統及數量を記述せば左の如し。

#### 1. 大連市場

大連市場集散の獸骨は滿鐵本線大石橋及蓋平、莊河以南の各地方より出廻り其數量一箇年大約八六〇萬斤なり。

#### 2. 奉天市場

南滿の中央に位置し滿鐵、奉山、奉海諸鐵道の連絡地點たる當市場に出廻る獸骨は滿鐵本線四平街以南大石橋以北奉山線一帶、平齊線、大鄭線、安奉線の一部及朝陽、北票並熱河省地方にして其出廻數量一箇年一、七六〇一、八八〇萬斤なり。

#### 3. 安東市場

當地に出廻る獸骨は安東市内三〇萬斤、自安東至本溪湖安奉沿線及臨江、通化、桓仁、寬甸の各地より三〇萬斤、大孤山、龍王廟、岫巖の各地より四〇萬斤一箇年計一〇〇萬斤なり。



4. 新京市場

新京市場の獸骨は新京市内一五〇萬斤、吉林地方より三〇萬斤、滿鐵本線四平街以北六〇萬斤、平齊沿線地方より六〇萬斤一箇年計三〇〇萬斤の出廻あり。  
上述四市場に於ける總集散數量三、〇二〇萬斤乃至三、一四〇萬斤にして内一、六八〇萬斤は大連滿蒙殖産株式會社に於て蒸製骨粉の原料となし、五〇萬斤餘は細工用、残一、四一〇萬斤は生骨粉の原料として日本鹿兒島に向け輸出し居れり。

三、獸骨の相場

獸骨の仕入相場 一〇〇斤に付 一・七〇—一・八〇  
販賣相場 日本輸出沖渡 一〇〇斤に付 四・〇〇

四、主要仕向地日本に於ける獸骨消費の概況

1. 獸骨使用の主要地方及數量

日本に於ける獸骨粉の消費は生骨粉使用の鹿兒島縣下を第一位とし其使用量は日本總消費量の半數五、〇〇〇萬斤に達せり。

次に蒸製骨粉使用の新潟、富山、秋田の三縣にして奈良、青森其他各縣に於て五、〇〇〇萬斤即ち一箇年の總消費量一〇、〇〇〇萬斤なり。

2. 最近數年間に於ける獸骨及骨粉の輸入、消費、生産數量並價格。

輸 入

年 別	區 分	骨		粉		獸		骨	
		數	量	價	額	數	量	價	格
昭 和	三 年		三六、〇〇〇		三、四〇五、〇〇〇		三一、八〇〇		一一、九七八、〇〇〇
同	四 年		四〇、〇〇七		三、八五一、〇〇〇		三三、〇六二		一三、四五五、〇〇〇
同	五 年		三〇、二二七		二、二七六、〇〇〇		二五、五六一		一二、〇一一、〇〇〇
同	六 年		三七、一一九		二、〇八六、〇〇〇		二五、七五一		七、二二三、〇〇〇
同	七 年		三二、〇六二		二、一六五、〇〇〇		一九、六六三		一一、〇九七、〇〇〇

消費、生産(骨粉)

年 別	區 分	消		費		生		産	
		數	量	價	格	數	量	價	格
昭 和	三 年		六九、六七五		六、九〇〇、〇〇〇		三三、六〇〇		三、四九二、〇〇〇
同	四 年		七七、三二七		七、五三九、〇〇〇		三七、三五二		三、六九一、〇〇〇
同	五 年		六四、四五五		四、七四四、〇〇〇		三四、二三四		二、四六七、〇〇〇
同	六 年		六六、〇九九		三、八八〇、〇〇〇		二八、九〇八		一、七九〇、〇〇〇
同	七 年		五九、七四四		四、二四九、〇〇〇		二七、四九二		二、〇七一、〇〇〇

3. 仕出地別輸入獸骨及骨粉數量並價格

1424  
398

備考	1424 圖	898 號	年	月	日
	(滿洲國) 產業部資料 第一〇 南滿地方(主要部年)に於ける肉用畜 畜の繁殖事情(肉用骨)に關する調査 報告書				

製本控

年別	區分	獸骨		粉		合計	
		數量	價格	數量	價格	數量	價格
滿洲	支那	五、〇二七	三三七、〇〇〇	六、八五八	四四二、〇〇〇	一一、八八五	七七九、〇〇〇
支那	支那	二、〇六一	八五六、〇〇〇	一五、二九六	一、〇五〇、〇〇〇	二七、三五七	一、九六一、〇〇〇
支那	支那	一、〇〇八	五七、〇〇〇	一〇〇	六、〇〇〇	一一、〇〇八	六三、〇〇〇
支那	支那	六三三	一四二、〇〇〇	九、二二三	五七一、〇〇〇	九、二二三	五七一、〇〇〇
支那	支那	二五〇	七〇、〇〇〇	二二九	一五、〇〇〇	六三三	一四二、〇〇〇
支那	支那	三一四	三八、〇〇〇	一五	一、〇〇〇	二五〇	七〇、〇〇〇
支那	支那	六三	一七、〇〇〇	六三	五三、〇〇〇	五四三	五三、〇〇〇
支那	支那	八三	二一、〇〇〇	八三	一七、〇〇〇	一〇二	二一、〇〇〇
支那	支那	一〇二	二九、〇〇〇	三五六	二六、〇〇〇	一〇二	二九、〇〇〇
支那	支那	一一二	二九、〇〇〇	三五六	二六、〇〇〇	四七八	八四、〇〇〇
支那	支那	一九、六六二	一、五九六、〇〇〇	三三、〇六二	二、一六五、〇〇〇	五一、七二四	三、七九〇、〇〇〇
合計	合計						

五、獸骨の加工

南滿に於ける獸骨の加工は前述せし如く大連滿家殖産株式會社に於て製造せらるゝ蒸製骨粉を主とし一箇年の生産高一〇、〇〇〇噸にして内一五〇—二〇〇噸を關東州内に於ける林檎の肥料となす以外日本各地に向け輸出し居れり滿家殖産株式會社に於ける蒸製骨粉の製造工程左の如し。

獸骨中より夾雜物を除去したる後蒸釜に投入し高壓蒸氣を加へ消毒後肥効的に有害無益なる脂肪分を除去し以て骨質を柔軟ならしめ然る後蒸釜より取出し充分乾燥せしめ之を粉碎して製す。

14.2  
898

終